

環境放射線監視結果報告書

平成26年度 年報

(平成26年4月～平成27年3月分)

平成27年7月

大阪府政策企画部危機管理室

目 次

はじめに	1
I 監視結果の概要	2
1 空間放射線	3
(1)空間線量率 (γ 線)	3
①月間平均値	3
②1時間値の変動状況	3
(2)積算線量	4
(3)中性子線量率	4
2 環境試料	4
(1)大気浮遊じん中の全 α ・全 β 放射能濃度及び γ 線放出核種濃度	4
①全 α ・全 β 放射能濃度の月間平均値	4
②全 α ・全 β 放射能濃度(6時間捕集・6時間減衰後の値)の変動状況	5
③ γ 線放出核種濃度	5
(2)環境試料中の全 β 放射能濃度	5
(3)環境試料中の核種濃度(γ 線放出核種)	6
(4)環境試料中の核種濃度(トリチウム及びウラン)	6
【用語の解説】	7
II 監視内容	8
1 実施機関	8
2 監視期間	8
3 対象原子力施設及び固定観測局	8
(1)対象原子力施設と監視地域	8
(2)固定観測局	8
4 測定項目及び測定方法	8
III 監視結果	9
1 空間放射線	9
(1)空間線量率	9
(2)積算線量	17
2 環境試料中の放射能濃度	18
(1)大気中放射性物質	18
①大気浮遊じん中の全 α 放射能及び全 β 放射能測定	18
②大気浮遊じんの γ 線スペクトル分析	20

(2) 環境試料中放射性物質	22
(3) 気象情報	27
参考資料	35
1 大阪府環境放射線評価専門委員会の概要	36
2 環境放射線監視計画書	37
3 空間線量率の測定状況	51
4 国内における環境放射線レベルについて	57
5 放射線・放射能の単位について	59
6 放射線被ばくの早見図	60

はじめに

大阪府では、平成 14 年度から京都大学原子炉実験所、原子燃料工業株式会社熊取事業所及び近畿大学原子力研究所周辺における地域住民の健康と安全の確保を図るため、『大阪府環境放射線監視計画書』に基づき原子力施設周辺の環境放射線を監視しています。

本報告書は、平成 26 年 4 月から平成 27 年 3 月までの監視結果について、平成 27 年 6 月 29 日に開催された『大阪府環境放射線評価専門委員会』における審議を経て、とりまとめを行ったものです。

I 監視結果の概要

本報告書は平成26年度（平成26年4月～平成27年3月）に実施した府内原子力施設周辺における環境放射線の監視結果を取りまとめたものです。

空間線量率（ γ 線）及び環境試料中の放射能濃度は、いずれも過去の測定結果と同程度で非常に低く、中性子線量率は全て検出限界値未満でした。また、府内の各原子力施設が実施した排気口・排水口における放射性物質の測定値¹⁾も非常に低水準でした。

環境試料の測定では、土壌から微量のセシウム137が検出されましたが、主に過去の核実験等²⁾の影響が残っているためと考えられます。

以上の結果、府内原子力施設から放射性物質の漏洩はなく、検出された放射性物質も人体に影響を与えない程度のものでした。

【空間放射線】

- ・空間線量率（ γ 線） 全15地点の最大値：91 nGy/h、平均値：44 nGy/h
- ・積算線量（91日換算） 全15地点の最大値：195 μ Gy/91日、平均値：158 μ Gy/91日
- ・積算線量（365日換算） 全15地点の最大値：769 μ Gy/365日、平均値：634 μ Gy/365日
- ・中性子線量率 全2地点ともに測定値は全て検出限界値未満

注）低線量率測定器による空間線量率は、50～3000 keV のエネルギー範囲を測定しており宇宙線の寄与分を含みません。一方、蛍光ガラス線量計による積算線量値は宇宙線の寄与分を含むなど、測定方法、測定器の特性及び測定する放射線のエネルギー範囲等が異なるため、空間線量率を365日に換算しても積算線量値とは同じにはなりません。

【環境試料中の放射能濃度】

- ・大気浮遊じん中全 α 放射能濃度 全3地点の最大値：0.492 Bq/m³、平均値：0.039 Bq/m³
- ・大気浮遊じん中全 β 放射能濃度 全3地点の最大値：0.985 Bq/m³、平均値：0.081 Bq/m³
- ・大気浮遊じん中 γ 線放出核種 全3地点ともに人工核種は検出限界値未満
- ・環境試料中全 β 放射能濃度 排水6試料の最大値：0.26 Bq/L
底質4試料の最大値：790 Bq/kg（乾）
- ・環境試料中セシウム137濃度 土壌6試料から検出：1.8～6.3 Bq/kg（乾）
排水試料は全て検出限界値未満
底質試料は全て検出限界値未満
- ・環境試料中トリチウム濃度 陸水6試料から検出：LTD～690 mBq/L
- ・環境試料中ウラン濃度 底質2試料から検出：1.1～1.4 μ g/g（乾）

1 空間放射線

(1) 空間線量率（ γ 線）

熊取町地域、泉佐野市地域及び東大阪市地域の全 15 地点において、NaI(Tl)シンチレーション検出器により空間線量率（ γ 線）を連続測定しました。

① 月間平均値

各測定地点の月間平均値は下表のとおりで、各月の測定値はほぼ一定でした。

表 I-1 空間線量率（1時間値）の月間平均値（単位：nGy/h）

監視地域	局数	月間平均値（平成26年度）												年間平均値	過去の平均値
		4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月	1月	2月	3月		
熊取町地域	6	46	46	47	46	46	47	46	46	46	46	46	46	46	47
泉佐野市地域	5	41	41	42	41	41	42	41	41	41	41	41	41	41	42
東大阪市地域	4	46	46	47	46	46	46	46	46	46	46	46	47	46	47
全観測局平均	15	44	44	45	44	44	45	44	44	44	44	44	45	44	—

② 1時間値の変動状況

各測定地点において、最大値が観測された時間帯や平常の変動幅³⁾の上限を超えた時間帯に降雨が観測されている（p.9「図Ⅲ-1」、p.11「図Ⅲ-2」及びp.13「図Ⅲ-3」参照）ことから、空間線量率の増加は降雨による自然放射線レベルの変動⁴⁾が原因であると考えられます。

表 I-2 空間線量率（1時間値）の月間最大値（単位：nGy/h）

監視地域	局数	月間最大値（平成26年度）												年間最大値	過去の最大値
		4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月	1月	2月	3月		
熊取町地域	6	63	70	68	65	75	61	91	64	71	74	63	71	91	90
泉佐野市地域	5	64	70	73	66	68	63	91	68	69	77	65	73	91	89
東大阪市地域	4	66	66	67	65	71	60	70	64	73	71	64	69	73	81

表 I-3 空間線量率（1時間値）が平常の変動幅を超過した件数

監視地域	局数	4月		5月		6月		7月		8月		9月		10月	
		上限	下限	上限	下限	上限	下限	上限	下限	上限	下限	上限	下限	上限	下限
熊取町地域	6	24	0	61	0	39	0	46	0	58	0	19	0	97	0
泉佐野市地域	5	21	0	41	0	33	0	39	0	39	0	16	0	78	0
東大阪市地域	4	13	0	40	0	14	0	23	0	37	0	3	0	45	0

監視地域	局数	11月		12月		1月		2月		3月		合計		過去の平均値	
		上限	下限	上限	下限	上限	下限	上限	下限	上限	下限	上限	下限	上限	下限
熊取町地域	6	65	0	150	0	141	0	51	0	224	0	975	0	249	1
泉佐野市地域	5	43	0	117	0	110	0	62	0	149	0	748	0	231	14
東大阪市地域	4	38	0	83	0	89	0	43	0	175	0	603	0	177	481

注)「平常の変動幅」上限値を上回った原因：降雨による（p.9「表Ⅲ-1」、p.11「表Ⅲ-2」及びp.13「表Ⅲ-3」参照）

(2) 積算線量

熊取町地域、泉佐野市地域及び東大阪市地域の全 15 地点において、蛍光ガラス線量計により空間放射線の積算線量を測定しました。

91 日（3ヶ月間）及び 365 日（年間）換算した各測定地点の最大値は表 I-4 のとおりです。測定値は過去の値と同水準であり、自然放射線レベルであると考えられます。

表 I-4 空間積算線量（91 日及び 365 日換算値）の最大値

監視地域	局数	3ヶ月間(91日換算) 積算線量(μGy/91日)				年間 (365日換算) 積算線量 (μGy/365日)	過去の 積算線量 (最大値) (μGy/365日)
		第1四半期 (H26.4.1～ H26.6.30)	第2四半期 (H26.7.1～ H26.9.30)	第3四半期 (H26.10.1～ H26.12.31)	第4四半期 (H27.1.1～ H27.3.31)		
熊取町地域	6	168	170	164	165	668	703
泉佐野市地域	5	195	194	190	188	769	810
東大阪市地域	4	181	179	178	176	716	737

(3) 中性子線量率

熊取オフサイトセンター局及び日根野浄水場局の 2 地点において、³He 比例計数管により中性子線量率を連続測定しました。測定値（1 時間値）は全て検出限界値（10 nSv/h）を下回っていました。

2 環境試料

(1) 大気浮遊じん中の全 α・全 β 放射能濃度及び γ 線放出核種濃度

熊取オフサイトセンター局、日根野浄水場局及び近畿大学グラウンド局の 3 地点において、全 α 及び全 β 放射能を連続測定しました。

① 全 α・全 β 放射能濃度の月間平均値

各測定地点の月間平均値は下表のとおりで、若干の変動が認められますが、自然放射能レベルの変動の範囲内であると考えられます。

表 I-5 大気浮遊じん中の全 α・全 β 放射能濃度の月間平均値（単位：Bq/m³）

測定項目	局数	月間平均値（平成26年度）							
		4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	
全 α 放射能	熊取町・ 泉佐野市地域	2	0.043	0.037	0.044	0.037	0.023	0.050	0.045
	東大阪市地域	1	0.063	0.048	0.037	0.035	0.026	0.043	0.051
	全観測局平均	3	0.050	0.041	0.041	0.036	0.024	0.048	0.047
全 β 放射能	熊取町・ 泉佐野市地域	2	0.093	0.082	0.094	0.078	0.052	0.110	0.099
	東大阪市地域	1	0.125	0.094	0.071	0.065	0.049	0.080	0.100
	全観測局平均	3	0.104	0.086	0.086	0.074	0.051	0.100	0.099

測定項目		局数	月間平均値 (平成26年度)					年間 平均値	過去の 平均値
			11月	12月	1月	2月	3月		
全α 放射能	熊取町・ 泉佐野市地域	2	0.046	0.022	0.025	0.028	0.033	0.036	0.036
	東大阪市地域	1	0.080	0.037	0.036	0.039	0.047	0.045	0.042
	全観測局平均	3	0.057	0.027	0.028	0.032	0.037	0.039	-
全β 放射能	熊取町・ 泉佐野市地域	2	0.098	0.048	0.053	0.061	0.070	0.078	0.080
	東大阪市地域	1	0.152	0.071	0.071	0.076	0.089	0.087	0.085
	全観測局平均	3	0.116	0.055	0.059	0.066	0.076	0.081	-

② 全α・全β放射能濃度（6時間捕集・6時間減衰後の値）の変動状況

各地点の月間最大値は下表のとおりで、若干の変動が認められますが、全α及び全β放射能濃度の相関関係⁵⁾ (p.20「図Ⅲ-4」参照) やγ線放出核種濃度の測定結果から、気象要因（風速等）による自然放射能レベル内の変動であると考えられます。

表 I-6 大気浮遊じん中の全α・全β放射能濃度の月間最大値（単位：Bq/m³）

測定項目		局数	月間最大値 (平成26年度)						
			4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月
全α 放射能	熊取町・ 泉佐野市地域	2	0.175	0.132	0.169	0.166	0.137	0.151	0.205
	東大阪市地域	1	0.453	0.248	0.215	0.152	0.104	0.353	0.345
全β 放射能	熊取町・ 泉佐野市地域	2	0.354	0.276	0.300	0.296	0.252	0.322	0.397
	東大阪市地域	1	0.863	0.427	0.393	0.280	0.171	0.630	0.651

測定項目		局数	月間最大値 (平成26年度)					年間 最大値	過去の 最大値
			11月	12月	1月	2月	3月		
全α 放射能	熊取町・ 泉佐野市地域	2	0.202	0.116	0.136	0.135	0.102	0.205	0.230
	東大阪市地域	1	0.492	0.159	0.200	0.272	0.266	0.492	0.460
全β 放射能	熊取町・ 泉佐野市地域	2	0.384	0.233	0.282	0.287	0.214	0.397	0.420
	東大阪市地域	1	0.985	0.314	0.386	0.502	0.476	0.985	0.810

③ γ線放出核種濃度

セシウム137等の人工核種は検出されませんでした (p.21「表Ⅲ-9」参照)。

(2) 環境試料中の全β放射能濃度

熊取町地域、泉佐野市地域及び東大阪市地域で採取した排水及び底質試料の分析結果は下表のとおりです。原燃工排水口の排水試料の測定値 (0.26 Bq/L : p.25「表Ⅲ-12」参照) は、熊取町・泉佐野市域の平常の変動幅³⁾ の上限値 (0.23 Bq/L : p.25「表Ⅲ-12」参照) を超過しましたが、本府の他の測定値が非常に低水準であったことから、原子力施設の異

常によるものではないと言えます。また、原燃工排水口の測定値は、統計的手法により算出した値 (0.26 Bq/L : p. 25 「表Ⅲ-12」参照) と比較したところ、他の試料と同様、自然放射能レベルであると考えられます。

表 I-7 環境試料中の全β放射能濃度

環境試料	試料数	単位	測定値 (平成26年度)	過去の測定値
排水	6	Bq/L	0.11~0.26	0.053~0.32
底質	4	Bq/kg(乾)	550~790	490~850

注) 試料採取日 : p. 25 「表Ⅲ-12」及び p. 26 「表Ⅲ-13」参照

(3) 環境試料中の核種濃度 (γ線放出核種)

熊取町地域、泉佐野市地域及び東大阪市地域で採取した環境試料 (土壌、農作物 (米)、指標生物 (キョウチクトウ)、陸水、排水、底質) の分析結果は下表のとおりで、土壌から微量のセシウム 137 が検出されました。検出されたセシウム 137 の濃度は平常の変動幅³⁾の範囲内で非常に低いことから、主に過去の核実験等²⁾の影響が残っているためと考えられます。

表 I-8 環境試料中のセシウム 137 濃度

環境試料	試料数	単位	測定値 (平成26年度)	過去の測定値
土壌	6	Bq/kg(乾)	1.8±0.24~6.3±0.46	LTD~7.5±0.4
農作物 (米)	1	Bq/kg(生)	LTD	LTD
農作物 (キャベツ)	1	Bq/kg(生)	LTD	LTD
指標生物 (キョウチクトウ)	2	Bq/kg(生)	LTD	LTD~1.5±0.10
陸水	6	mBq/L	LTD	LTD~4.3±0.37
排水	6	mBq/L	LTD	LTD~3.3±0.35
底質	4	Bq/kg(乾)	LTD	LTD~1.4±0.25

注) 試料採取日 : p. 23 「表Ⅲ-10」及び p. 24 「表Ⅲ-11」参照

LTD (Less than detectable) : 検出限界値未満

(4) 環境試料中の核種濃度 (トリチウム及びウラン)

トリチウム及びウランの濃度についても、平常の変動幅³⁾の範囲内で非常に低いことから、トリチウムは自然及び過去の核実験等²⁾由来、ウラン濃度は自然放射能レベルであると考えられます。

表 I-9 環境試料中のトリチウム及びウラン濃度

環境試料	測定核種	試料数	単位	測定値 (平成26年度)	過去の測定値
陸水	トリチウム	6	mBq/L	LTD~690±110	LTD□850±160
底質	ウラン	2	μg/g(乾)	1.1~1.4	1.0±0.3~□9±0.008

注) 試料採取日 : p. 25 「表Ⅲ-12」及び p. 26 「表Ⅲ-13」参照

ウランの測定値 : 繰り返し5回測定 of 平均値及びその標準偏差

LTD (Less than detectable) : 検出限界値未満

【用語の解説】

1) 各原子力施設が実施した排気口・排水口における放射性物質の測定値

各施設が「核原料物質、核燃料物質及び原子炉の規制に関する法律」に基づき原子力規制委員会へ報告した「上半期放射線管理等報告書」及び「下半期放射線管理等報告書」に記載されています。

2) 過去の核実験等

環境試料の核種濃度については、昭和 55 年以前に行われた大気圏核実験の影響により、セシウム 137 の放射能レベルの上昇が指標生物に見られるとともに、農作物等の試料からジルコニウム 95、ニオブ 95、セシウム 137、セリウム 144 等が検出されました。

その後、大気圏核実験の停止に伴い、全体的に環境試料中の放射能レベルは減少していましたが、チェルノブイリ原子力発電所（旧ソビエト連邦、現ウクライナ）等の事故により放射性物質が放出され、ヨウ素 131、セシウム 134、セシウム 137 等が検出されました。現在に至っても、半減期の長いセシウム 137 が全国的に微量ながら検出されています。

3) 平常の変動幅

多数の測定値を評価するにあたり、合理的且つ容易に注目すべき測定値を抽出するため「平常の変動幅」を設定しています。この変動幅は、観測局ごとに過去の測定値（最大 10 年間：詳細は p. 9 以降の各表の注釈に記載）を用いて統計的手法（平均値 $\pm 3\sigma$ （標準偏差の 3 倍））を用いて定めていますが、環境試料等の検出限界値未満のデータを含んでいるもの及びデータ数が少ないものについては、過去の測定値（最大 10 年間：詳細は p. 9 以降の各表の注釈に記載）の「最小値から最大値」までの範囲に設定しています。しかし、降雨等自然環境の変化、核実験等の影響、測定器系のトラブル、原子力施設の影響等があった場合、この変動幅を超える確率は通常よりも高くなります。従って、測定値がこの変動幅を超えた場合には、その原因について調査することとしています。

なお、「平常の変動幅」を算定する際に用いた過去の値には、東京電力福島第一原子力発電所事故の影響を受けたデータが含まれています。

また、p. 6 の表 I-7、表 I-8 及び表 I-9 に記載の「過去の測定値」は、各試料採取地点等における平常の変動幅を試料の種類ごとに集約したものです。

4) 降雨による自然放射線レベルの変動

通常、降雨時には、天然由来であるラドン及びトロンの子孫核種（鉛 214、ビスマス 214 等）を含む大気浮遊じん等が雨滴に取り込まれ、地表付近に降下します。このため、降雨の時間帯に空間線量率が上昇することがあります。

5) 全 α 及び全 β 放射能濃度の相関関係

通常、大気浮遊じん中の全 α ・全 β 放射能濃度は、大気が安定している時や風速が弱いときには上昇し、降雨時や強風の時には減少するというように、類似した変動パターンを示すことから、両者の相関関係は非常に良好であることが知られています。これは、全 α ・全 β 放射能濃度が大気中に存在する天然由来のラドン、トロン濃度を反映しているためです。

しかし、人工の放射性物質を含む浮遊じんが移流してくると、全 β 放射能濃度が高くなるため、全 α ・全 β 放射能濃度の相関関係は低下します。これまで、核実験やチェルノブイリ原子力発電所等の事故の際には、相関関係が大きく低下した事例が見られました。

II 監視内容

1 実施機関

大阪府政策企画部危機管理室

2 監視期間

平成 26 年 4 月～平成 27 年 3 月

3 対象原子力施設及び固定観測局

(1) 対象原子力施設と監視地域

京都大学原子炉実験所（試験研究炉）
 原子燃料工業株式会社熊取事業所（核燃料加工施設） } 熊取町・泉佐野市地域
 近畿大学原子力研究所（試験研究炉）……………東大阪市地域

(2) 固定観測局

各固定観測局（モニタリングステーション/ポスト）の名称等を表 II-1 に示します。

表 II-1 固定観測局（モニタリングステーション/ポスト）

監視地域	熊取町地域						泉佐野市地域					東大阪市地域			
固定観測局 記号 番号	A 01	A 02	A 03	A 04	A 05	A 06	A 07	A 08	A 09	A 10	A 11	A 12	A 13	A 14	A 15
S：ステー ション P：ポスト	S	P	P	P	P	P	S	P	P	P	P	S	P	P	P
固定観測局	大阪府熊取オ フサイトセン ター	熊取町立西小 学校	山の手台1号 公園	アトム共同保 育園	熊取町立南小 学校	熊取町役場	泉佐野市日根 野浄水場	大阪府立日根 野高等学校	大阪府立佐野 支援学校	泉佐野市立日 根野小学校	泉佐野市大池 グラウンド	近畿大学グラ ウンド	東大阪市立上 小阪小学校	近畿大学原子 力研究所北	近畿大学原子 力研究所南

4 測定項目及び測定方法

平成 26 年度における環境放射線等の測定項目及び測定方法は、参考資料 2「環境放射線監視計画書」（p. 37～50 参照）に記載のとおりです。なお、雨山川底質試料のウラン測定は、中性子照射を行う試験研究炉が東日本大震災の影響で利用できないため、誘導結合プラズマ（ICP）質量分析法により計測しました。

Ⅲ 監視結果

1 空間放射線

(1) 空間線量率

熊取町地域6局、泉佐野市地域5局及び東大阪市地域4局における空間線量率(γ線)の測定結果は、それぞれ表Ⅲ-1、表Ⅲ-2及び表Ⅲ-3のとおりです。

各局とも、平常の変動幅を超過した原因は、図Ⅲ-1、図Ⅲ-2及び図Ⅲ-3のとおり、降雨による自然放射線レベルの変動であると考えられます。

表Ⅲ-1(1) 空間放射線(γ線)測定結果(熊取町地域) (単位:nGy/h)

固定観測局	測定月	測定結果(平成26年度)				測定結果の比較評価			過去の測定値の範囲
		平均値	最大値	最小値	有効測定時間(h)	平常の変動幅	変動幅超過数	超過理由	
A01 熊取OFC	4月	42	56	40	720	35	3	気象条件(降雨)による	38
	5月	42	61	40	744		9	気象条件(降雨)による	
	6月	42	58	40	720		2	気象条件(降雨)による	
	7月	42	57	39	744		4	気象条件(降雨)による	
	8月	42	68	39	744		7	気象条件(降雨)による	
	9月	42	52	39	692	1	気象条件(降雨)による	}	
	10月	42	82	40	744	13	気象条件(降雨)による		
	11月	42	54	40	720	5	気象条件(降雨)による		
	12月	42	62	40	739	20	気象条件(降雨)による	81	
	1月	42	67	40	744	17	気象条件(降雨)による		
	2月	42	55	40	672	3	気象条件(降雨)による		
	3月	43	64	40	735	32	気象条件(降雨)による		
	年度	42	82	39	8,718	合計	116		
A02 熊取西小学校	4月	49	61	47	720	43	3	気象条件(降雨)による	46
	5月	50	67	47	744		8	気象条件(降雨)による	
	6月	51	59	48	720		3	気象条件(降雨)による	
	7月	50	63	47	744		5	気象条件(降雨)による	
	8月	50	69	47	744		8	気象条件(降雨)による	
	9月	51	58	48	710	2	気象条件(降雨)による	}	
	10月	50	90	47	735	14	気象条件(降雨)による		
	11月	49	63	47	720	6	気象条件(降雨)による		
	12月	49	64	47	741	17	気象条件(降雨)による	84	
	1月	49	70	47	744	16	気象条件(降雨)による		
	2月	49	60	47	672	4	気象条件(降雨)による		
	3月	49	67	47	739	26	気象条件(降雨)による		
	年度	50	90	47	8,733	合計	112		
A03 山の手台1号公園	4月	50	63	47	720	43	5	気象条件(降雨)による	46
	5月	50	69	48	744		10	気象条件(降雨)による	
	6月	51	62	48	720		6	気象条件(降雨)による	
	7月	50	65	47	744		6	気象条件(降雨)による	
	8月	50	75	48	744		9	気象条件(降雨)による	
	9月	51	61	48	709	3	気象条件(降雨)による	}	
	10月	50	91	48	744	16	気象条件(降雨)による		
	11月	50	64	48	720	9	気象条件(降雨)による		
	12月	50	71	48	741	24	気象条件(降雨)による	90	
	1月	50	74	48	744	22	気象条件(降雨)による		
	2月	50	63	48	672	5	気象条件(降雨)による		
	3月	50	71	47	739	35	気象条件(降雨)による		
	年度	50	91	47	8,741	合計	150		

注) 平常の変動幅: 機器更新後(平成24年4月~平成26年3月)の測定値の「平均値±3σ(標準偏差の3倍)」
 変動幅超過数: 平常の変動幅を外れた件数(上限値を超過した件数と下限値を下回った件数の和)
 過去の測定値の範囲: 機器更新後(平成24年4月~平成26年3月)の測定値の「最小値~最大値」

表Ⅲ-1(2) 空間放射線(γ線)測定結果(熊取町地域) (単位:nGy/h)

観測地点	測定月	測定結果(平成26年度)				測定結果の比較評価			過去の測定値の範囲
		平均値	最大値	最小値	有効測定時間(h)	平常の変動幅	変動幅超過数	超過理由	
A04 アトム 共同 保育園	4月	50	63	48	720	44	4	気象条件(降雨)による	47
	5月	52	70	48	744		14	気象条件(降雨)による	
	6月	53	66	50	720		15	気象条件(降雨)による	
	7月	52	65	50	744		15	気象条件(降雨)による	
	8月	52	74	50	744		14	気象条件(降雨)による	
	9月	52	61	50	713		5	気象条件(降雨)による	
	10月	52	83	50	738	}	19	気象条件(降雨)による	}
	11月	51	62	49	720		15	気象条件(降雨)による	
	12月	51	68	49	740		30	気象条件(降雨)による	
	1月	51	71	49	744	57	27	気象条件(降雨)による	85
	2月	51	63	49	672		13	気象条件(降雨)による	
	3月	51	70	49	739		44	気象条件(降雨)による	
	年度	52	83	48	8,738		合計	215	
A05 熊取南 小学校	4月	47	61	44	720	40	4	気象条件(降雨)による	42
	5月	48	66	45	744		9	気象条件(降雨)による	
	6月	48	68	45	720		8	気象条件(降雨)による	
	7月	48	62	45	744		9	気象条件(降雨)による	
	8月	47	72	45	744		8	気象条件(降雨)による	
	9月	48	58	45	717		2	気象条件(降雨)による	
	10月	48	86	45	736	}	17	気象条件(降雨)による	}
	11月	48	63	45	720		15	気象条件(降雨)による	
	12月	48	67	45	742		31	気象条件(降雨)による	
	1月	48	73	44	744	55	28	気象条件(降雨)による	87
	2月	48	61	46	672		13	気象条件(降雨)による	
	3月	48	68	45	738		39	気象条件(降雨)による	
	年度	48	86	44	8,741		合計	183	
A06 熊取町 役場	4月	35	47	34	720	30	5	気象条件(降雨)による	33
	5月	36	49	34	744		11	気象条件(降雨)による	
	6月	36	44	34	720		5	気象条件(降雨)による	
	7月	36	46	34	744		7	気象条件(降雨)による	
	8月	36	56	34	744		12	気象条件(降雨)による	
	9月	36	48	34	716		6	気象条件(降雨)による	
	10月	36	65	34	734	}	18	気象条件(降雨)による	}
	11月	36	46	34	720		15	気象条件(降雨)による	
	12月	36	52	34	741		28	気象条件(降雨)による	
	1月	36	58	34	744	41	31	気象条件(降雨)による	65
	2月	36	45	34	672		13	気象条件(降雨)による	
	3月	36	54	34	740		48	気象条件(降雨)による	
	年度	36	65	34	8,739		合計	199	

注) 平常の変動幅: 機器更新後(平成24年4月~平成26年3月)の測定値の「平均値±3σ(標準偏差の3倍)」
 変動幅超過数: 平常の変動幅を外れた件数(上限値を超過した件数と下限値を下回った件数の和)
 過去の測定値の範囲: 機器更新後(平成24年4月~平成26年3月)の測定値の「最小値~最大値」

表Ⅲ-2(1) 空間放射線（γ線）測定結果（泉佐野市地域）（単位：nGy/h）

固定観測局	測定月	測定結果（平成26年度）				測定結果の比較評価			過去の測定値の範囲
		平均値	最大値	最小値	有効測定時間(h)	平常の変動幅	変動幅超過数	超過理由	
A07 日根野浄水場	4月	41	58	37	720	33	8	気象条件(降雨)による	37
	5月	41	62	38	744		9	気象条件(降雨)による	
	6月	41	56	38	720		9	気象条件(降雨)による	
	7月	41	56	38	744		10	気象条件(降雨)による	
	8月	41	67	37	744		11	気象条件(降雨)による	
	9月	41	53	38	698	}	3	気象条件(降雨)による	}
	10月	41	79	37	744		18	気象条件(降雨)による	
	11月	41	55	38	720		15	気象条件(降雨)による	
	12月	41	61	38	738	48	34	気象条件(降雨)による	84
	1月	41	68	37	744		28	気象条件(降雨)による	
	2月	41	54	37	672		14	気象条件(降雨)による	
	3月	41	66	38	738		51	気象条件(降雨)による	
	年度	41	79	37	8,726	合計	210		
A08 日根野高等学校	4月	34	48	32	720	26	4	気象条件(降雨)による	30
	5月	34	55	32	744		11	気象条件(降雨)による	
	6月	35	49	32	720		6	気象条件(降雨)による	
	7月	34	53	32	744		10	気象条件(降雨)による	
	8月	34	60	31	744		9	気象条件(降雨)による	
	9月	35	46	32	710	}	4	気象条件(降雨)による	}
	10月	34	77	32	744		19	気象条件(降雨)による	
	11月	34	49	32	720		12	気象条件(降雨)による	
	12月	34	55	32	741	42	27	気象条件(降雨)による	80
	1月	34	63	32	744		26	気象条件(降雨)による	
	2月	34	48	32	672		37	気象条件(降雨)による	
	3月	34	60	31	735		12	気象条件(降雨)による	
	年度	34	77	31	8,738	合計	177		
A09 佐野支援学校	4月	35	50	33	720	28	3	気象条件(降雨)による	32
	5月	36	53	34	744		8	気象条件(降雨)による	
	6月	37	57	35	720		7	気象条件(降雨)による	
	7月	37	53	34	744		8	気象条件(降雨)による	
	8月	36	59	33	744		7	気象条件(降雨)による	
	9月	37	45	34	718	}	1	気象条件(降雨)による	}
	10月	37	72	35	734		15	気象条件(降雨)による	
	11月	37	50	35	720		6	気象条件(降雨)による	
	12月	36	56	34	740	44	23	気象条件(降雨)による	78
	1月	36	64	33	744		24	気象条件(降雨)による	
	2月	36	50	34	672		6	気象条件(降雨)による	
	3月	36	59	33	739		35	気象条件(降雨)による	
	年度	36	72	33	8,739	合計	143		

注) 平常の変動幅：機器更新後（平成24年4月～平成26年3月）の測定値の「平均値±3σ（標準偏差の3倍）」

変動幅超過数：平常の変動幅を外れた件数（上限値を超過した件数と下限値を下回った件数の和）

過去の測定値の範囲：機器更新後（平成24年4月～平成26年3月）の測定値の「最小値～最大値」

表Ⅲ-2(2) 空間放射線（γ線）測定結果（泉佐野市地域）（単位：nGy/h）

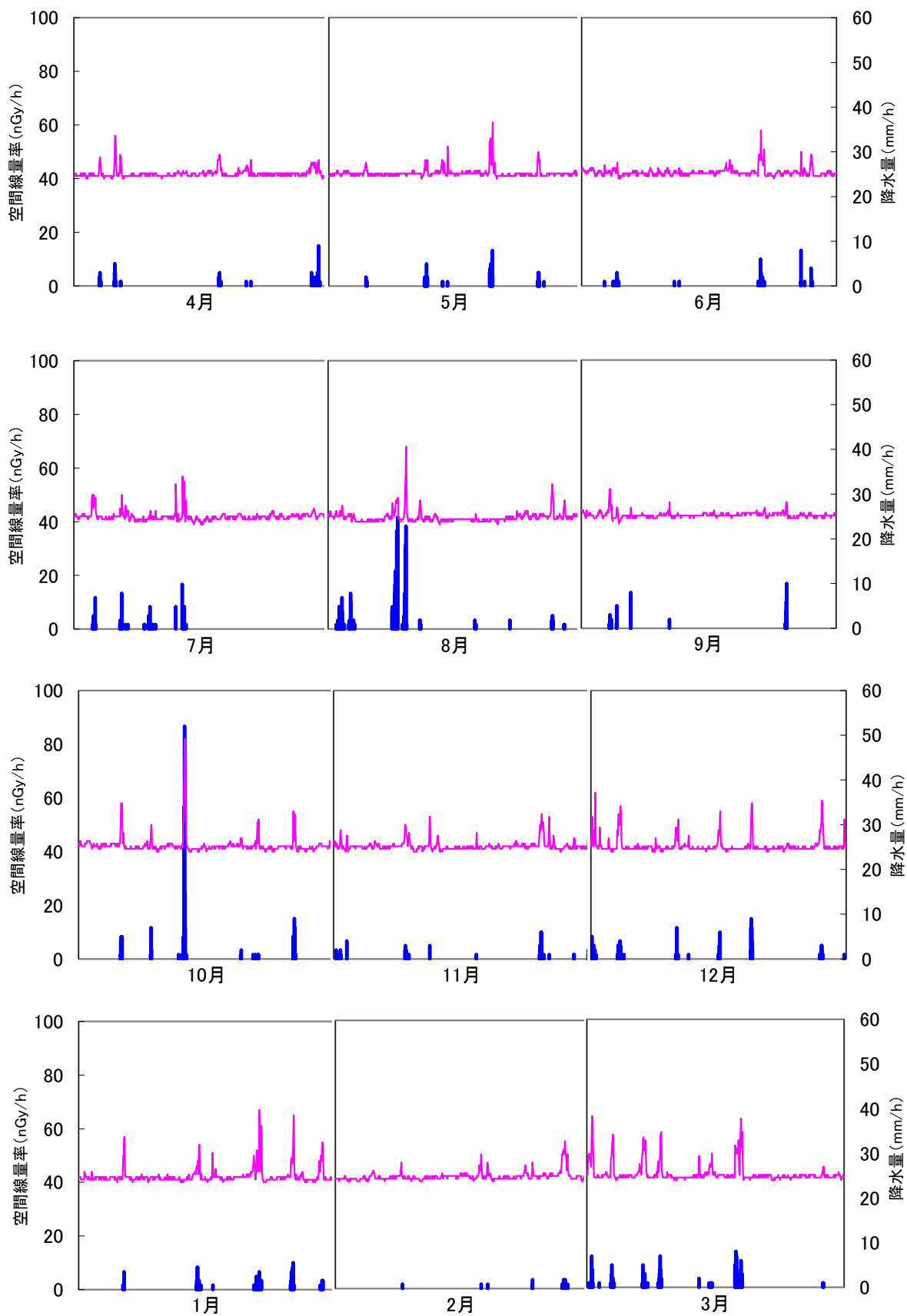
観測地点	測定月	測定結果（平成26年度）				測定結果の比較評価			過去の測定値の範囲
		平均値	最大値	最小値	有効測定時間(h)	平常の変動幅	変動幅超過数	超過理由	
A10 日根野 小学校	4月	41	53	39	720	35	4	気象条件(降雨)による	38
	5月	41	56	40	744		6	気象条件(降雨)による	
	6月	41	51	39	720		4	気象条件(降雨)による	
	7月	41	50	39	744		4	気象条件(降雨)による	
	8月	41	60	39	740		7	気象条件(降雨)による	
	9月	42	58	39	709		6	気象条件(降雨)による	
	10月	41	65	39	744		}	14	
	11月	41	51	39	720	7		気象条件(降雨)による	
	12月	41	55	40	741	48	20	気象条件(降雨)による	70
	1月	42	66	39	744		19	気象条件(降雨)による	
	2月	41	52	40	672		4	気象条件(降雨)による	
	3月	42	58	39	738		29	気象条件(降雨)による	
	年度	41	66	39	8,736	合計	124		
A11 大池 グラウンド	4月	52	64	49	720	43	2	気象条件(降雨)による	45
	5月	52	70	49	744		7	気象条件(降雨)による	
	6月	55	73	50	720		7	気象条件(降雨)による	
	7月	54	66	50	744		7	気象条件(降雨)による	
	8月	52	68	48	744		5	気象条件(降雨)による	
	9月	53	63	50	710	}	2	気象条件(降雨)による	}
	10月	52	91	49	744		12	気象条件(降雨)による	
	11月	51	68	49	720		3	気象条件(降雨)による	
	12月	51	69	47	741	62	13	気象条件(降雨)による	89
	1月	51	77	48	744		13	気象条件(降雨)による	
	2月	51	65	49	672		1	気象条件(降雨)による	
	3月	51	73	48	739		22	気象条件(降雨)による	
	年度	52	91	47	8,742	合計	94		

注) 平常の変動幅：機器更新後（平成24年4月～平成26年3月）の測定値の「平均値±3σ（標準偏差の3倍）」
 変動幅超過数：平常の変動幅を外れた件数（上限値を超過した件数と下限値を下回った件数の和）
 過去の測定値の範囲：機器更新後（平成24年4月～平成26年3月）の測定値の「最小値～最大値」

表Ⅲ-3 空間放射線（γ線）測定結果（東大阪市地域）（単位：nGy/h）

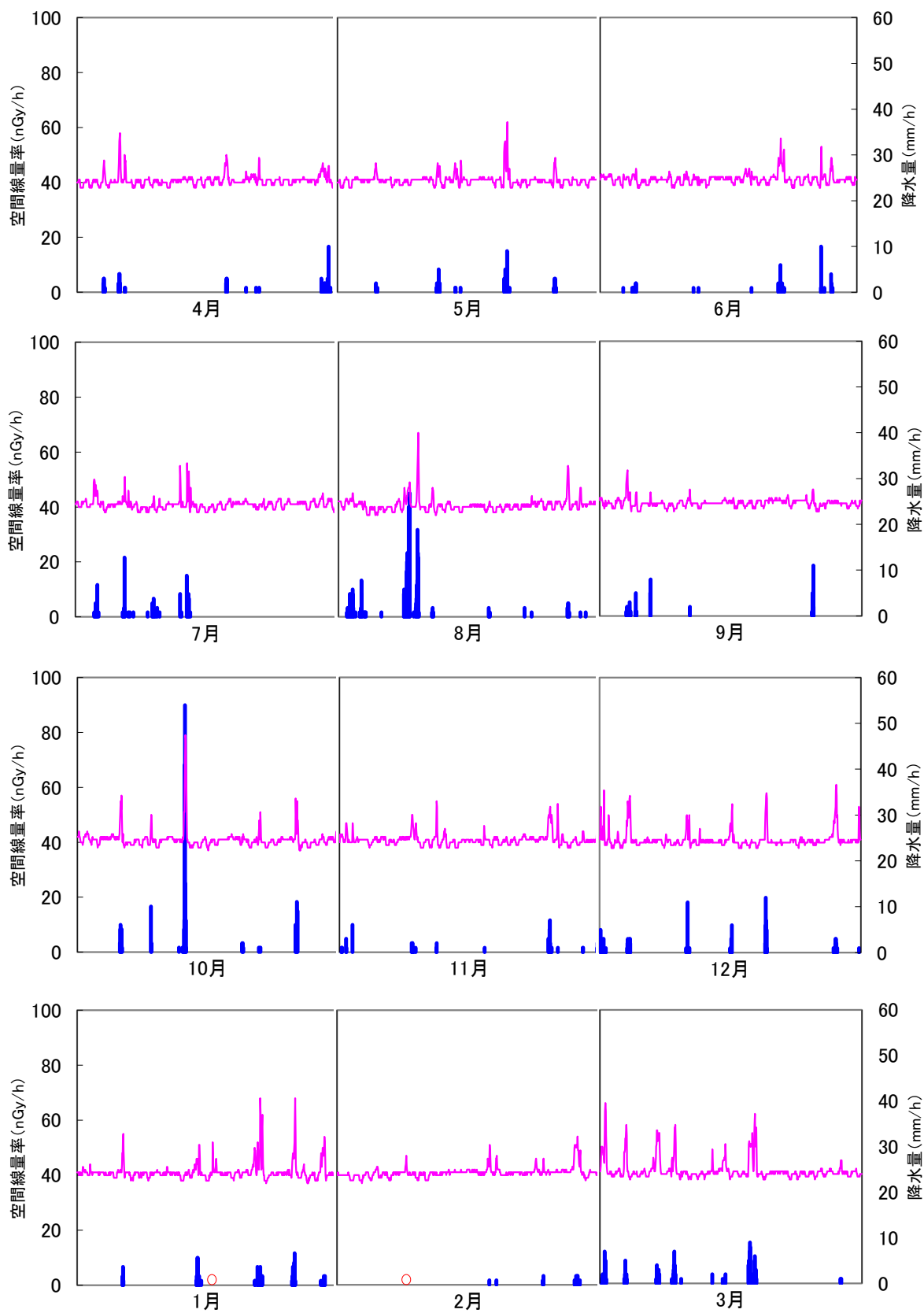
固定観測局	測定月	測定結果（平成26年度）				測定結果の比較評価			過去の測定値の範囲
		平均値	最大値	最小値	有効測定時間(h)	平常の変動幅	変動幅超過数	超過理由	
A12 近大 グラント	4月	38	50	37	720	32	4	気象条件(降雨)による	36
	5月	39	52	37	744		12	気象条件(降雨)による	
	6月	39	51	37	720		7	気象条件(降雨)による	
	7月	38	49	37	744		11	気象条件(降雨)による	
	8月	38	55	36	744		13	気象条件(降雨)による	
	9月	38	45	37	689	2	気象条件(降雨)による	}	
	10月	39	55	37	744	}	15		気象条件(降雨)による
	11月	39	50	36	720		17		気象条件(降雨)による
	12月	38	56	37	741		30		気象条件(降雨)による
	1月	39	56	37	744		44		33
	2月	38	50	37	672			16	気象条件(降雨)による
	3月	39	54	37	735	57		気象条件(降雨)による	
	年度	39	56	36	8,717	合計	217		
A13 上小阪 小学校	4月	43	55	42	720	37	2	気象条件(降雨)による	41
	5月	43	57	42	744		10	気象条件(降雨)による	
	6月	43	54	42	720		2	気象条件(降雨)による	
	7月	43	56	42	744		3	気象条件(降雨)による	
	8月	43	61	41	744		9	気象条件(降雨)による	
	9月	43	51	42	706	1	気象条件(降雨)による	}	
	10月	43	60	41	744	}	12		気象条件(降雨)による
	11月	43	55	41	720		8		気象条件(降雨)による
	12月	43	62	41	741		20		気象条件(降雨)による
	1月	43	60	41	744		50		23
	2月	43	55	41	672			11	気象条件(降雨)による
	3月	43	60	42	740	41		気象条件(降雨)による	
	年度	43	62	41	8,739	合計	142		
A14 近大 原研北	4月	50	61	49	720	43	3	気象条件(降雨)による	45
	5月	50	60	49	744		9	気象条件(降雨)による	
	6月	50	61	48	720		2	気象条件(降雨)による	
	7月	50	59	48	744		3	気象条件(降雨)による	
	8月	49	66	47	744		5	気象条件(降雨)による	
	9月	49	54	47	704	0		}	
	10月	49	61	47	744	}	7		気象条件(降雨)による
	11月	49	60	48	720		5		気象条件(降雨)による
	12月	50	66	48	741		14		気象条件(降雨)による
	1月	50	63	48	744		56		14
	2月	50	59	48	672			6	気象条件(降雨)による
	3月	50	63	49	737	35		気象条件(降雨)による	
	年度	50	66	47	8,734	合計	103		
A15 近大 原研南	4月	53	66	51	720	47	4	気象条件(降雨)による	48
	5月	53	66	52	744		9	気象条件(降雨)による	
	6月	54	67	52	720		3	気象条件(降雨)による	
	7月	54	65	52	744		6	気象条件(降雨)による	
	8月	53	71	51	744		10	気象条件(降雨)による	
	9月	53	60	52	708	0		}	
	10月	53	70	51	744	}	11		気象条件(降雨)による
	11月	53	64	52	720		8		気象条件(降雨)による
	12月	53	73	51	741		19		気象条件(降雨)による
	1月	53	71	51	744		60		19
	2月	53	64	51	672			10	気象条件(降雨)による
	3月	54	69	52	739	42		気象条件(降雨)による	
	年度	53	73	51	8,740	合計	141		

注) 平常の変動幅：機器更新後（平成24年4月～平成26年3月）の測定値の「平均値±3σ（標準偏差の3倍）」
 変動幅超過数：平常の変動幅を外れた件数（上限値を超過した件数と下限値を下回った件数の和）
 過去の測定値の範囲：機器更新後（平成24年4月～平成26年3月）の測定値の「最小値～最大値」



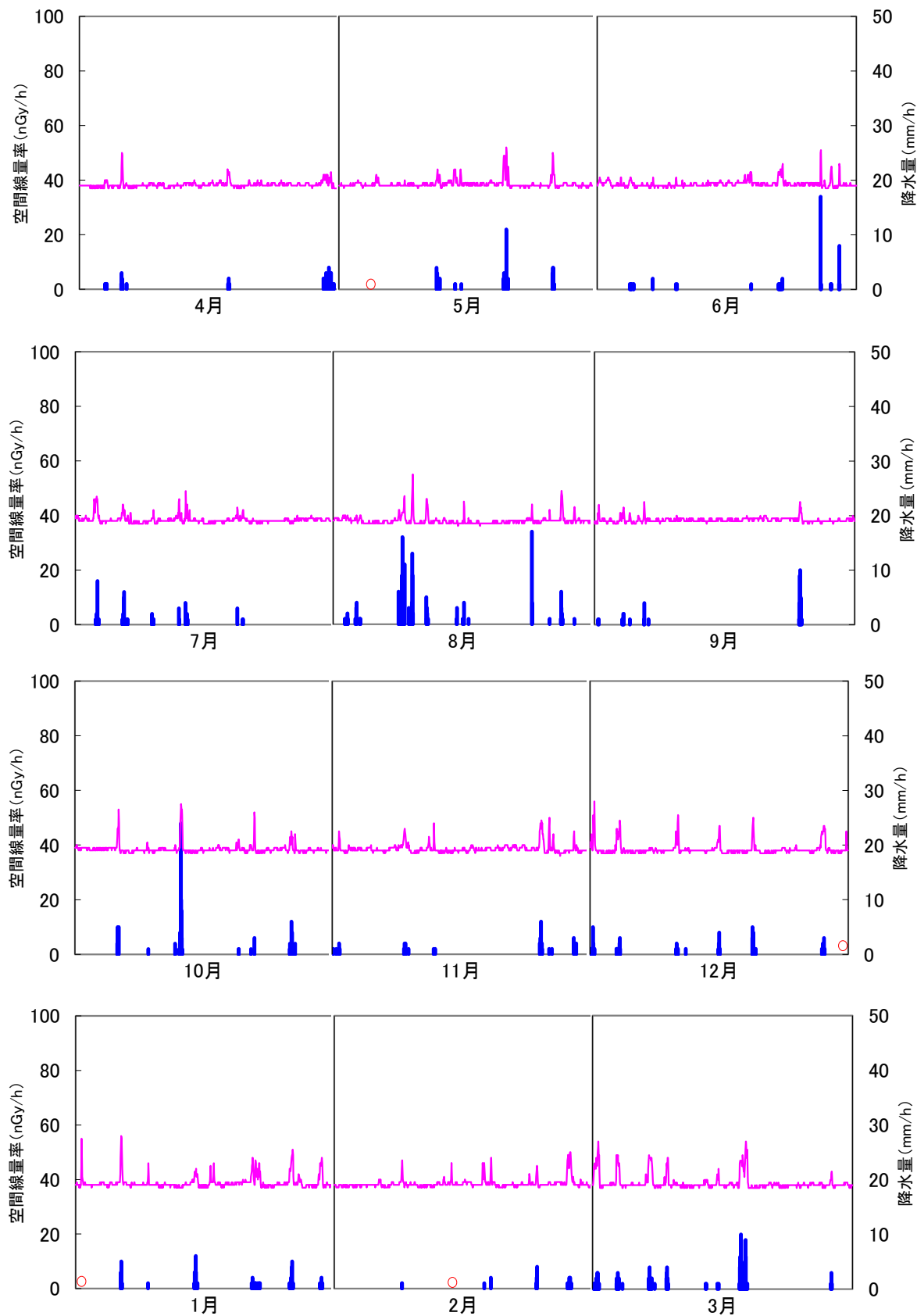
図Ⅲ-1 低線量トレンド (熊取オフサイトセンター局)

注) 折れ線グラフ: 線量率 棒グラフ: 雨量 ○: 感雨 (1 mm未満の降雨)



図Ⅲ-2 低線量トレンド（日根野浄水場局）

注 折れ線グラフ：線量率 棒グラフ：雨量 ○：感雨（1 mm未満の降雨）



図Ⅲ-3 低線量トレンド（近畿学グラウンド局）

注 折れ線グラフ：線量率 棒グラフ：雨量 ○：感雨（1 mm未満の降雨）

(2) 積算線量

各地域における空間積算線量の測定結果は、表Ⅲ-4、表Ⅲ-5及び表Ⅲ-6のとおりです。

表Ⅲ-4 積算線量測定結果（熊取町地域）

固定観測局	3ヶ月間(91日換算)積算線量(μGy/91日)				年間 (365日換算) 積算線量 (μGy/365日)	過去年間 (365日換算) 積算線量の範囲 (μGy/365日)
	第1四半期 (H26.4.1~ H26.6.30)	第2四半期 (H26.7.1~ H26.9.30)	第3四半期 (H26.10.1~ H26.12.31)	第4四半期 (H27.1.1~ H27.3.31)		
A01 熊取OFC	150	147	146	146	591	562~615
A02 熊取西小学校	168	168	164	164	666	643~690
A03 山の手台1号公園	165	164	161	162	654	628~679
A04 アトム共同保育園	167	170	164	165	668	656~703
A05 熊取南小学校	161	161	158	158	640	617~665
A06 熊取町役場	143	144	141	142	572	548~595

表Ⅲ-5 積算線量測定結果（泉佐野市地域）

固定観測局	3ヶ月間(91日換算)積算線量(μGy/91日)				年間 (365日換算) 積算線量 (μGy/365日)	過去年間 (365日換算) 積算線量の範囲 (μGy/365日)
	第1四半期 (H26.4.1~ H26.6.30)	第2四半期 (H26.7.1~ H26.9.30)	第3四半期 (H26.10.1~ H26.12.31)	第4四半期 (H27.1.1~ H27.3.31)		
A07 日根野浄水場	164	165	161	161	653	635~679
A08 日根野高等学校	144	145	140	139	570	554~593
A09 佐野支援学校	141	140	140	136	559	542~582
A10 日根野小学校	147	145	144	143	581	567~602
A11 大池グラウンド	195	194	190	188	769	747~810

表Ⅲ-6 積算線量測定結果（東大阪市地域）

固定観測局	3ヶ月間(91日換算)積算線量(μGy/91日)				年間 (365日換算) 積算線量 (μGy/365日)	過去年間 (365日換算) 積算線量の範囲 (μGy/365日)
	第1四半期 (H26.4.1~ H26.6.30)	第2四半期 (H26.7.1~ H26.9.30)	第3四半期 (H26.10.1~ H26.12.31)	第4四半期 (H27.1.1~ H27.3.31)		
A12 近大グラウンド	156	154	152	150	614	600~640
A13 上小阪小学校	149	148	146	146	591	578~614
A14 近大原研北	181	179	178	176	716	685~737
A15 近大原研南	169	168	165	166	670	637~691

【参考】 全固定観測局（15地点）の積算線量の平均値

91日（3ヶ月）換算値：158 μGy/91日

365日（年間）換算値：634 μGy/365日

2 環境試料中の放射能濃度

(1) 大気中放射性物質

① 大気浮遊じん中の全α放射能及び全β放射能測定

大気浮遊じん中の全α放射能及び全β放射能の測定結果は、それぞれ表Ⅲ-7及び表Ⅲ-8のとおりです。全地点において平常の変動幅の超過が認められましたが、全α放射能濃度及び全β放射能濃度の相関関係等から、平常の変動幅を超過した原因は、気象要因等による自然放射能レベルの変動と考えられます。

表Ⅲ-7 大気浮遊じん中の全α放射能測定結果 (単位：Bq/m³)

固定観測局	測定月	測定結果 (平成26年度)				測定結果の比較評価		過去の測定値の範囲
		平均値	最大値	最小値	有効測定時間(h)	平常の変動幅	変動幅超過数	
A01 熊取OFC	4月	0.036	0.136	0.003	714	0.003	2	0.003
	5月	0.031	0.120	0.004	738		1	
	6月	0.037	0.120	0.005	713		1	
	7月	0.030	0.113	0.004	744		0	
	8月	0.019	0.078	0.003	738		0	
	9月	0.044	0.112	0.005	653		0	
	10月	0.039	0.151	0.003	736	}	3	}
	11月	0.040	0.167	0.005	714		2	
	12月	0.019	0.080	0.003	737	0.109	0	0.150
	1月	0.021	0.103	0.003	744		0	
	2月	0.024	0.135	0.003	666		1	
	3月	0.028	0.094	0.003	716		0	
	年度	0.031	0.167	0.003	8,613	合計	10	
A07 日根野浄水場	4月	0.050	0.175	0.004	682	0.003	1	0.003
	5月	0.043	0.132	0.006	738		0	
	6月	0.050	0.169	0.009	666		1	
	7月	0.043	0.166	0.005	744		2	
	8月	0.026	0.137	0.003	737		0	
	9月	0.056	0.151	0.006	625		0	
	10月	0.051	0.205	0.003	730	}	2	}
	11月	0.051	0.202	0.006	713		2	
	12月	0.025	0.116	0.005	738	0.145	0	0.230
	1月	0.028	0.136	0.003	744		0	
	2月	0.032	0.132	0.003	666		0	
	3月	0.037	0.102	0.003	715		0	
	年度	0.041	0.205	0.003	8,498	合計	8	
A12 近大グランド	4月	0.063	0.453	0.003	714	0.003	11	0.003
	5月	0.048	0.248	0.005	744		3	
	6月	0.037	0.215	0.004	714		2	
	7月	0.035	0.152	0.007	744		0	
	8月	0.026	0.104	0.004	744		0	
	9月	0.043	0.353	0.004	619		1	
	10月	0.051	0.345	0.004	730	}	4	}
	11月	0.080	0.492	0.007	720		14	
	12月	0.037	0.159	0.005	738	0.180	0	0.460
	1月	0.036	0.200	0.003	744		1	
	2月	0.039	0.272	0.003	672		1	
	3月	0.047	0.266	0.005	712		6	
	年度	0.045	0.492	0.003	8,595	合計	43	

注) 平常の変動幅：JIS(Z4616)適用の検出器に更新した平成24年4月以降(平成24年4月～平成26年3月)の測定値の「平均値±3σ(標準偏差の3倍)」

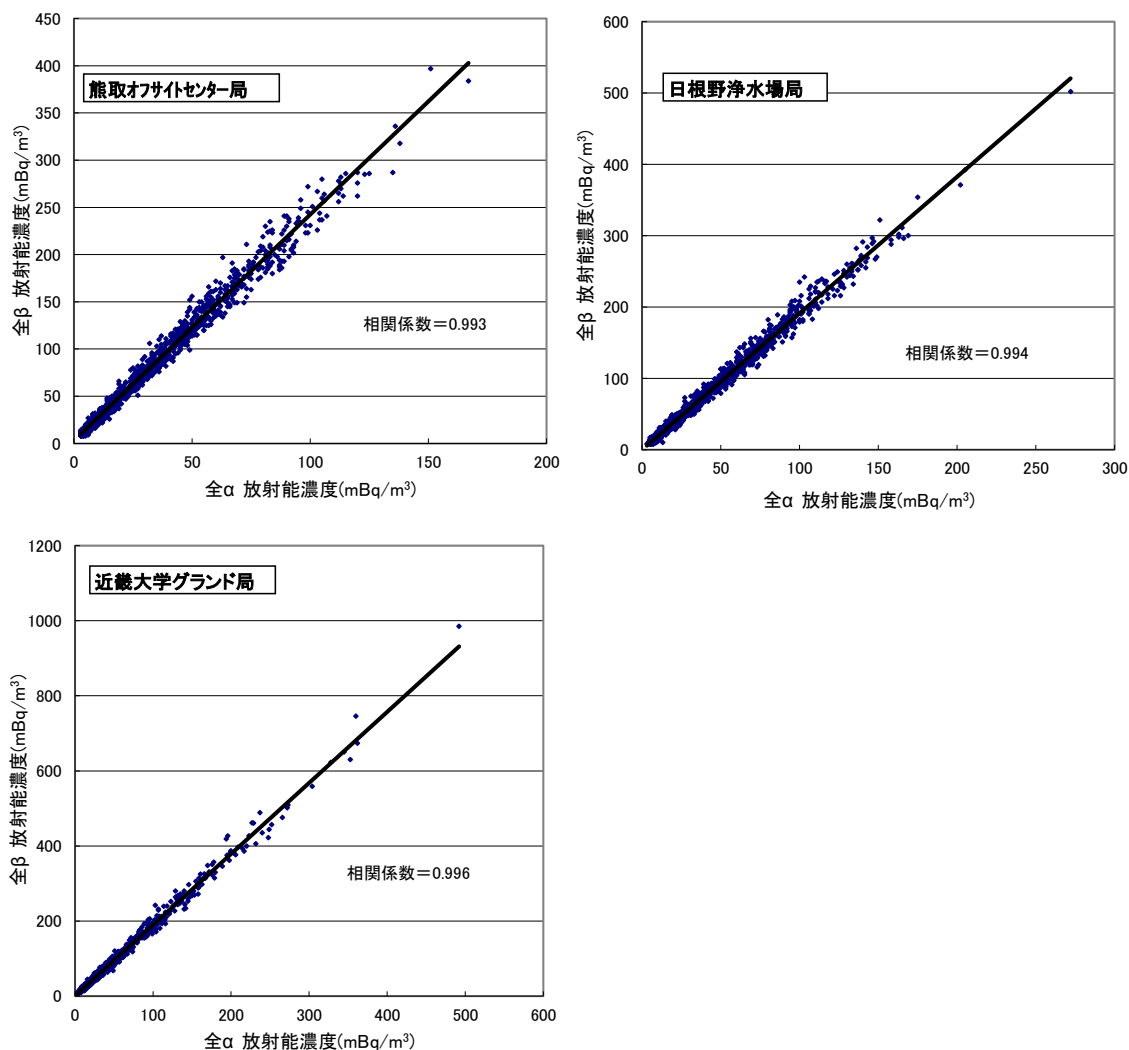
変動幅超過数：平常の変動幅を外れた件数(上限値を超過した件数と下限値を下回った件数の和)

過去の測定値の範囲：JIS(Z4616)適用の検出器に更新した平成24年4月以降(平成24年4月～平成26年3月)の測定値の「最小値～最大値」

表Ⅲ-8 大気浮遊じん中の全β放射能測定結果 (単位：Bq/m³)

固 定 観 測 局	測定月	測定結果 (平成26年度)				測定結果の比較評価		過去の 測定値 の範囲
		平均値	最大値	最小値	有効測定 時間(h)	平常の 変動幅	変動幅 超過数	
A01 熊取OFC	4月	0.090	0.336	0.008	714	0.008	2	0.008
	5月	0.079	0.276	0.010	738		0	
	6月	0.091	0.262	0.016	713		0	
	7月	0.075	0.282	0.009	744		1	
	8月	0.050	0.191	0.008	738		0	
	9月	0.110	0.280	0.015	653)	0)
	10月	0.097	0.397	0.008	736		1	
	11月	0.098	0.384	0.013	714		2	
	12月	0.047	0.219	0.008	737	0.280	0	0.390
	1月	0.051	0.226	0.008	744		0	
	2月	0.059	0.287	0.008	666		0	
	3月	0.069	0.214	0.008	716		0	
	年度	0.076	0.397	0.008	8,613		合計	
A07 日 根 野 浄 水 場	4月	0.096	0.354	0.010	682	0.008	1	0.008
	5月	0.084	0.255	0.010	738		0	
	6月	0.096	0.300	0.018	666		1	
	7月	0.081	0.296	0.011	744		0	
	8月	0.053	0.252	0.008	737		0	
	9月	0.110	0.322	0.008	625)	1)
	10月	0.101	0.392	0.008	730		2	
	11月	0.097	0.371	0.011	713		2	
	12月	0.048	0.233	0.008	738	0.287	0	0.420
	1月	0.054	0.282	0.008	744		0	
	2月	0.063	0.273	0.008	666		0	
	3月	0.071	0.209	0.010	715		0	
	年度	0.080	0.392	0.008	8,498		合計	
A12 近 大 グランド	4月	0.125	0.863	0.008	714	0.008	11	0.008
	5月	0.094	0.427	0.010	744		3	
	6月	0.071	0.393	0.012	714		2	
	7月	0.065	0.280	0.014	744		0	
	8月	0.049	0.171	0.009	744		0	
	9月	0.080	0.630	0.008	619)	1)
	10月	0.100	0.651	0.008	730		4	
	11月	0.152	0.985	0.013	720		13	
	12月	0.071	0.314	0.008	738	0.357	0	0.810
	1月	0.071	0.386	0.008	744		1	
	2月	0.076	0.502	0.008	672		1	
	3月	0.089	0.476	0.008	712		6	
	年度	0.087	0.985	0.008	8,595		合計	

注) 平常の変動幅：JIS(Z4616)適用の検出器に更新した平成24年4月以降(平成24年4月～平成26年3月)の測定値の「平均値±3σ(標準偏差の3倍)」
 変動幅超過数：平常の変動幅を外れた件数(上限値を超過した件数と下限値を下回った件数の和)
 過去の測定値の範囲：JIS(Z4616)適用の検出器に更新した平成24年4月以降(平成24年4月～平成26年3月)の測定値の「最小値～最大値」



図Ⅲ-4 大気浮遊じん中全 α 放射能濃度及び全 β 放射能濃度の相関関係

②大気浮遊じんの γ 線スペクトル分析

3ヶ月間毎に大気浮遊じんをろ紙上に捕集し、 γ 線スペクトル分析に供しました。分析結果は表Ⅲ-9のとおりです。なお、環境試料中の放射性核種の検出目標値は、参考資料2「環境放射線監視計画書」(p. 37 参照)に記載しています。

(2) 環境試料中放射性物質

各原子力施設周辺で環境試料を採取し、 γ 線スペクトル分析に供しました。陸水及び底質試料については、全 β 、トリチウム及びウランの分析も実施しました。分析した測定結果は、表Ⅲ-10、表Ⅲ-11、表Ⅲ-12 及び表Ⅲ-13 のとおりです。なお、環境試料中の放射性核種の検出目標値は、参考資料 2 「環境放射線監視計画書」(p. 37 参照)に記載しています。

表 III-10 環境試料のγ線スペクトル分析結果（熊取町・泉佐野地域）

環境試料	採取地点	測定年月日	濃度																	単位																	
			核種										種																								
			人										工																								
土壌	和歌山県日根神社	平成26年5月26日	⁵⁴ Mn	LTD	⁵⁹ Fe	LTD	⁵⁸ Co	LTD	⁶⁰ Co	LTD	⁶⁵ Zn	LTD	⁹⁵ Zr	LTD	⁹⁵ Nb	LTD	¹⁰⁹ Ru	LTD	¹⁰⁶ Ru	LTD	¹²⁵ Sb	LTD	¹³⁴ Cs	LTD	¹³⁷ Cs	6.3±0.46	¹⁴⁰ Ba	LTD	¹⁴⁰ La	LTD	¹⁴⁴ Ce	LTD	⁷ Be	LTD	天然核種	⁴⁰ K	610±12
	和歌山県日根神社	平成26年5月27日	⁵⁴ Mn	LTD	⁵⁹ Fe	LTD	⁵⁸ Co	LTD	⁶⁰ Co	LTD	⁶⁵ Zn	LTD	⁹⁵ Zr	LTD	⁹⁵ Nb	LTD	¹⁰⁹ Ru	LTD	¹⁰⁶ Ru	LTD	¹²⁵ Sb	LTD	¹³⁴ Cs	LTD	¹³⁷ Cs	2.2±0.37	¹⁴⁰ Ba	LTD	¹⁴⁰ La	LTD	¹⁴⁴ Ce	LTD	⁷ Be	LTD	天然核種	⁴⁰ K	890±13
	和歌山県日根神社	平成27年1月16日	⁵⁴ Mn	LTD	⁵⁹ Fe	LTD	⁵⁸ Co	LTD	⁶⁰ Co	LTD	⁶⁵ Zn	LTD	⁹⁵ Zr	LTD	⁹⁵ Nb	LTD	¹⁰⁹ Ru	LTD	¹⁰⁶ Ru	LTD	¹²⁵ Sb	LTD	¹³⁴ Cs	LTD	¹³⁷ Cs	6.0±0.35	¹⁴⁰ Ba	LTD	¹⁴⁰ La	LTD	¹⁴⁴ Ce	LTD	⁷ Be	LTD	天然核種	⁴⁰ K	610±9
	和歌山県日根神社	平成27年1月19日	⁵⁴ Mn	LTD	⁵⁹ Fe	LTD	⁵⁸ Co	LTD	⁶⁰ Co	LTD	⁶⁵ Zn	LTD	⁹⁵ Zr	LTD	⁹⁵ Nb	LTD	¹⁰⁹ Ru	LTD	¹⁰⁶ Ru	LTD	¹²⁵ Sb	LTD	¹³⁴ Cs	LTD	¹³⁷ Cs	1.8±0.24	¹⁴⁰ Ba	LTD	¹⁴⁰ La	LTD	¹⁴⁴ Ce	LTD	⁷ Be	LTD	天然核種	⁴⁰ K	960±10
	平常の変動幅			LTD	LTD	LTD	LTD	LTD	LTD	LTD	LTD	LTD	LTD	LTD	LTD	LTD	LTD	LTD	LTD	LTD	LTD	LTD	LTD	LTD	LTD	LTD	1.0±0.21~7.5±0.4	LTD	LTD	LTD	LTD	LTD	LTD	LTD	LTD	LTD	LTD
農作物	日根野地区	平成26年9月25日	⁵⁴ Mn	LTD	⁵⁹ Fe	LTD	⁵⁸ Co	LTD	⁶⁰ Co	LTD	⁶⁵ Zn	LTD	⁹⁵ Zr	LTD	⁹⁵ Nb	LTD	¹⁰⁹ Ru	LTD	¹⁰⁶ Ru	LTD	¹²⁵ Sb	LTD	¹³⁴ Cs	LTD	¹³⁷ Cs	LTD	¹⁴⁰ Ba	LTD	¹⁴⁰ La	LTD	¹⁴⁴ Ce	LTD	⁷ Be	LTD	天然核種	⁴⁰ K	21±0.6
	日根野地区(キヤベツ)	平成27年1月21日	⁵⁴ Mn	LTD	⁵⁹ Fe	LTD	⁵⁸ Co	LTD	⁶⁰ Co	LTD	⁶⁵ Zn	LTD	⁹⁵ Zr	LTD	⁹⁵ Nb	LTD	¹⁰⁹ Ru	LTD	¹⁰⁶ Ru	LTD	¹²⁵ Sb	LTD	¹³⁴ Cs	LTD	¹³⁷ Cs	LTD	¹⁴⁰ Ba	LTD	¹⁴⁰ La	LTD	¹⁴⁴ Ce	LTD	⁷ Be	LTD	天然核種	⁴⁰ K	69±1.2
陸水	平常の変動幅		⁵⁴ Mn	LTD	⁵⁹ Fe	LTD	⁵⁸ Co	LTD	⁶⁰ Co	LTD	⁶⁵ Zn	LTD	⁹⁵ Zr	LTD	⁹⁵ Nb	LTD	¹⁰⁹ Ru	LTD	¹⁰⁶ Ru	LTD	¹²⁵ Sb	LTD	¹³⁴ Cs	LTD	¹³⁷ Cs	LTD	¹⁴⁰ Ba	LTD	¹⁴⁰ La	LTD	¹⁴⁴ Ce	LTD	⁷ Be	LTD	天然核種	⁴⁰ K	18±0.2~92±1
	永楽ダム	平成26年6月12日	⁵⁴ Mn	LTD	⁵⁹ Fe	LTD	⁵⁸ Co	LTD	⁶⁰ Co	LTD	⁶⁵ Zn	LTD	⁹⁵ Zr	LTD	⁹⁵ Nb	LTD	¹⁰⁹ Ru	LTD	¹⁰⁶ Ru	LTD	¹²⁵ Sb	LTD	¹³⁴ Cs	LTD	¹³⁷ Cs	LTD	¹⁴⁰ Ba	LTD	¹⁴⁰ La	LTD	¹⁴⁴ Ce	LTD	⁷ Be	LTD	天然核種	⁴⁰ K	35±4.0
	大池	平成26年6月12日	⁵⁴ Mn	LTD	⁵⁹ Fe	LTD	⁵⁸ Co	LTD	⁶⁰ Co	LTD	⁶⁵ Zn	LTD	⁹⁵ Zr	LTD	⁹⁵ Nb	LTD	¹⁰⁹ Ru	LTD	¹⁰⁶ Ru	LTD	¹²⁵ Sb	LTD	¹³⁴ Cs	LTD	¹³⁷ Cs	LTD	¹⁴⁰ Ba	LTD	¹⁴⁰ La	LTD	¹⁴⁴ Ce	LTD	⁷ Be	LTD	天然核種	⁴⁰ K	42±4.1
	永楽ダム	平成26年12月22日	⁵⁴ Mn	LTD	⁵⁹ Fe	LTD	⁵⁸ Co	LTD	⁶⁰ Co	LTD	⁶⁵ Zn	LTD	⁹⁵ Zr	LTD	⁹⁵ Nb	LTD	¹⁰⁹ Ru	LTD	¹⁰⁶ Ru	LTD	¹²⁵ Sb	LTD	¹³⁴ Cs	LTD	¹³⁷ Cs	LTD	¹⁴⁰ Ba	LTD	¹⁴⁰ La	LTD	¹⁴⁴ Ce	LTD	⁷ Be	LTD	天然核種	⁴⁰ K	38±4.7
	大池	平成26年12月24日	⁵⁴ Mn	LTD	⁵⁹ Fe	LTD	⁵⁸ Co	LTD	⁶⁰ Co	LTD	⁶⁵ Zn	LTD	⁹⁵ Zr	LTD	⁹⁵ Nb	LTD	¹⁰⁹ Ru	LTD	¹⁰⁶ Ru	LTD	¹²⁵ Sb	LTD	¹³⁴ Cs	LTD	¹³⁷ Cs	LTD	¹⁴⁰ Ba	LTD	¹⁴⁰ La	LTD	¹⁴⁴ Ce	LTD	⁷ Be	LTD	天然核種	⁴⁰ K	57±6.0
排水	平常の変動幅		⁵⁴ Mn	LTD	⁵⁹ Fe	LTD	⁵⁸ Co	LTD	⁶⁰ Co	LTD	⁶⁵ Zn	LTD	⁹⁵ Zr	LTD	⁹⁵ Nb	LTD	¹⁰⁹ Ru	LTD	¹⁰⁶ Ru	LTD	¹²⁵ Sb	LTD	¹³⁴ Cs	LTD	¹³⁷ Cs	LTD	¹⁴⁰ Ba	LTD	¹⁴⁰ La	LTD	¹⁴⁴ Ce	LTD	⁷ Be	LTD	天然核種	⁴⁰ K	30±5~100±6
	大池排水口	平成26年7月7日	⁵⁴ Mn	LTD	⁵⁹ Fe	LTD	⁵⁸ Co	LTD	⁶⁰ Co	LTD	⁶⁵ Zn	LTD	⁹⁵ Zr	LTD	⁹⁵ Nb	LTD	¹⁰⁹ Ru	LTD	¹⁰⁶ Ru	LTD	¹²⁵ Sb	LTD	¹³⁴ Cs	LTD	¹³⁷ Cs	LTD	¹⁴⁰ Ba	LTD	¹⁴⁰ La	LTD	¹⁴⁴ Ce	LTD	⁷ Be	LTD	天然核種	⁴⁰ K	27±5.1
	京大排水口	平成26年7月8日	⁵⁴ Mn	LTD	⁵⁹ Fe	LTD	⁵⁸ Co	LTD	⁶⁰ Co	LTD	⁶⁵ Zn	LTD	⁹⁵ Zr	LTD	⁹⁵ Nb	LTD	¹⁰⁹ Ru	LTD	¹⁰⁶ Ru	LTD	¹²⁵ Sb	LTD	¹³⁴ Cs	LTD	¹³⁷ Cs	LTD	¹⁴⁰ Ba	LTD	¹⁴⁰ La	LTD	¹⁴⁴ Ce	LTD	⁷ Be	LTD	天然核種	⁴⁰ K	100±5
	原燃工排水口	平成26年12月22日	⁵⁴ Mn	LTD	⁵⁹ Fe	LTD	⁵⁸ Co	LTD	⁶⁰ Co	LTD	⁶⁵ Zn	LTD	⁹⁵ Zr	LTD	⁹⁵ Nb	LTD	¹⁰⁹ Ru	LTD	¹⁰⁶ Ru	LTD	¹²⁵ Sb	LTD	¹³⁴ Cs	LTD	¹³⁷ Cs	LTD	¹⁴⁰ Ba	LTD	¹⁴⁰ La	LTD	¹⁴⁴ Ce	LTD	⁷ Be	LTD	天然核種	⁴⁰ K	300±8
	京大排水口	平成26年12月24日	⁵⁴ Mn	LTD	⁵⁹ Fe	LTD	⁵⁸ Co	LTD	⁶⁰ Co	LTD	⁶⁵ Zn	LTD	⁹⁵ Zr	LTD	⁹⁵ Nb	LTD	¹⁰⁹ Ru	LTD	¹⁰⁶ Ru	LTD	¹²⁵ Sb	LTD	¹³⁴ Cs	LTD	¹³⁷ Cs	LTD	¹⁴⁰ Ba	LTD	¹⁴⁰ La	LTD	¹⁴⁴ Ce	LTD	⁷ Be	LTD	天然核種	⁴⁰ K	150±8
底質	平常の変動幅		⁵⁴ Mn	LTD	⁵⁹ Fe	LTD	⁵⁸ Co	LTD	⁶⁰ Co	LTD	⁶⁵ Zn	LTD	⁹⁵ Zr	LTD	⁹⁵ Nb	LTD	¹⁰⁹ Ru	LTD	¹⁰⁶ Ru	LTD	¹²⁵ Sb	LTD	¹³⁴ Cs	LTD	¹³⁷ Cs	LTD	¹⁴⁰ Ba	LTD	¹⁴⁰ La	LTD	¹⁴⁴ Ce	LTD	⁷ Be	LTD	天然核種	⁴⁰ K	68±6~300±10
	雨山川	平成26年5月26日	⁵⁴ Mn	LTD	⁵⁹ Fe	LTD	⁵⁸ Co	LTD	⁶⁰ Co	LTD	⁶⁵ Zn	LTD	⁹⁵ Zr	LTD	⁹⁵ Nb	LTD	¹⁰⁹ Ru	LTD	¹⁰⁶ Ru	LTD	¹²⁵ Sb	LTD	¹³⁴ Cs	LTD	¹³⁷ Cs	LTD	¹⁴⁰ Ba	LTD	¹⁴⁰ La	LTD	¹⁴⁴ Ce	LTD	⁷ Be	LTD	天然核種	⁴⁰ K	710±9
	平常の変動幅		⁵⁴ Mn	LTD	⁵⁹ Fe	LTD	⁵⁸ Co	LTD	⁶⁰ Co	LTD	⁶⁵ Zn	LTD	⁹⁵ Zr	LTD	⁹⁵ Nb	LTD	¹⁰⁹ Ru	LTD	¹⁰⁶ Ru	LTD	¹²⁵ Sb	LTD	¹³⁴ Cs	LTD	¹³⁷ Cs	LTD	¹⁴⁰ Ba	LTD	¹⁴⁰ La	LTD	¹⁴⁴ Ce	LTD	⁷ Be	LTD	天然核種	⁴⁰ K	620±8
	平常の変動幅		⁵⁴ Mn	LTD	⁵⁹ Fe	LTD	⁵⁸ Co	LTD	⁶⁰ Co	LTD	⁶⁵ Zn	LTD	⁹⁵ Zr	LTD	⁹⁵ Nb	LTD	¹⁰⁹ Ru	LTD	¹⁰⁶ Ru	LTD	¹²⁵ Sb	LTD	¹³⁴ Cs	LTD	¹³⁷ Cs	LTD	¹⁴⁰ Ba	LTD	¹⁴⁰ La	LTD	¹⁴⁴ Ce	LTD	⁷ Be	LTD	天然核種	⁴⁰ K	630±10~780±11

1) 核種濃度 LTD (Less than detectable) : 検出限界値未満
 検出された放射性核種濃度 : 試料採取日から測定日までの減衰量を補正したもの
 平常の変動幅 : 過去10年間 (平成16年4月~平成26年3月) の測定値の「最小値~最大値」 (熊取町・泉佐野地域のデータから算出)
¹³⁴Cs及び¹³⁷Csは、東京電力福島第一原子力発電所事故の影響を受けたデータを含む。
 2) 試料採取年月日 上半期 : H26. 4. 24 (但し米はH26. 9. 11) 、下半期 : H26. 10. 15 (但しキヤベツ)はH27. 1. 15)

表Ⅲ-12 環境試料のその他核種分析結果（熊取町・泉佐野市地域）

環境試料	採取地点	測定年月日 (ウラン以外)	トリチウム濃度 (mBq/L)	全β濃度		ウラン濃度 (μg/g乾)	備考
				Bq/L	Bq/kg乾		
陸水 (表層水)	永楽ダム	平成26年5月16日	410±110	/	/	/	
	大池	平成26年5月16日	LTD				
	永楽ダム	平成26年11月10日	LTD				
	大池	平成26年11月10日	320±110				
	平常の変動幅		LTD ~ 640±140				
排水	京大排水口	平成26年5月21日	/	0.11	/	/	
	原燃工排水口	平成26年5月27日		0.26			
	京大排水口	平成26年10月29日		0.16			
	原燃工排水口	平成26年10月29日		0.23			
	平常の変動幅			0.05 ~0.23			
底質	雨山川	平成26年5月26日	/	/	650	1.4±0.008	
		平成27年1月20日			550	1.1±0.008	
	平常の変動幅				490 ~800	1.0±0.3~ 1.9±0.008	

- 1) 核種濃度 LTD (Less than detectable) : 検出限界値未満
平常の変動幅 : 過去10年間 (平成16年4月~平成26年3月) の測定値の「最小値~最大値」
(熊取町・泉佐野市域のデータから算出)
- 2) 試料採取日 上半期 : H26.4.24、下半期 : H26.10.15
- 3) ウラン 測定年月日 : 上半期 : H26.7.16、下半期 : H27.3.13
測定方法 : 誘導結合プラズマ (ICP) 質量分析法
測定値 : 繰り返し5回測定の平均値及び標準偏差
- 4) 排水中全β放射能濃度の過去10年間 (平成16年4月~平成26年3月) の測定値から算出した「平均値+3σ (標準偏差の3倍)」 : 0.26 Bq/L

表Ⅲ-13 環境試料のその他核種分析結果（東大阪市地域）

環境試料	採取地点	測定年月日	トリチウム濃度 (mBq/L)	全β濃度		備考		
				Bq/L	Bq/kg乾			
陸水 (飲料水)	上小阪配水場	平成26年5月16日	410±110	/	/			
		平成26年11月10日	690±110					
	平常の変動幅	LTD ～850±160						
排水	近大原研前 マンホール	平成26年5月21日					0.22	
		平成26年10月29日					0.14	
	平常の変動幅		0.093 ～0.32					
底質	近大原研前 マンホール	平成26年5月26日			600			
		平成27年1月14日			790			
	平常の変動幅			540 ～850				

- 1) 核種濃度 LTD (Less than detectable) : 検出限界値未満
 平常の変動幅 : 過去10年間(平成16年4月～平成26年3月)の測定値の「最小値～最大値」
 (東大阪市域のデータから算出)
- 2) 試料採取日 上半期 : H26. 4. 25、下半期 : H26. 10. 16

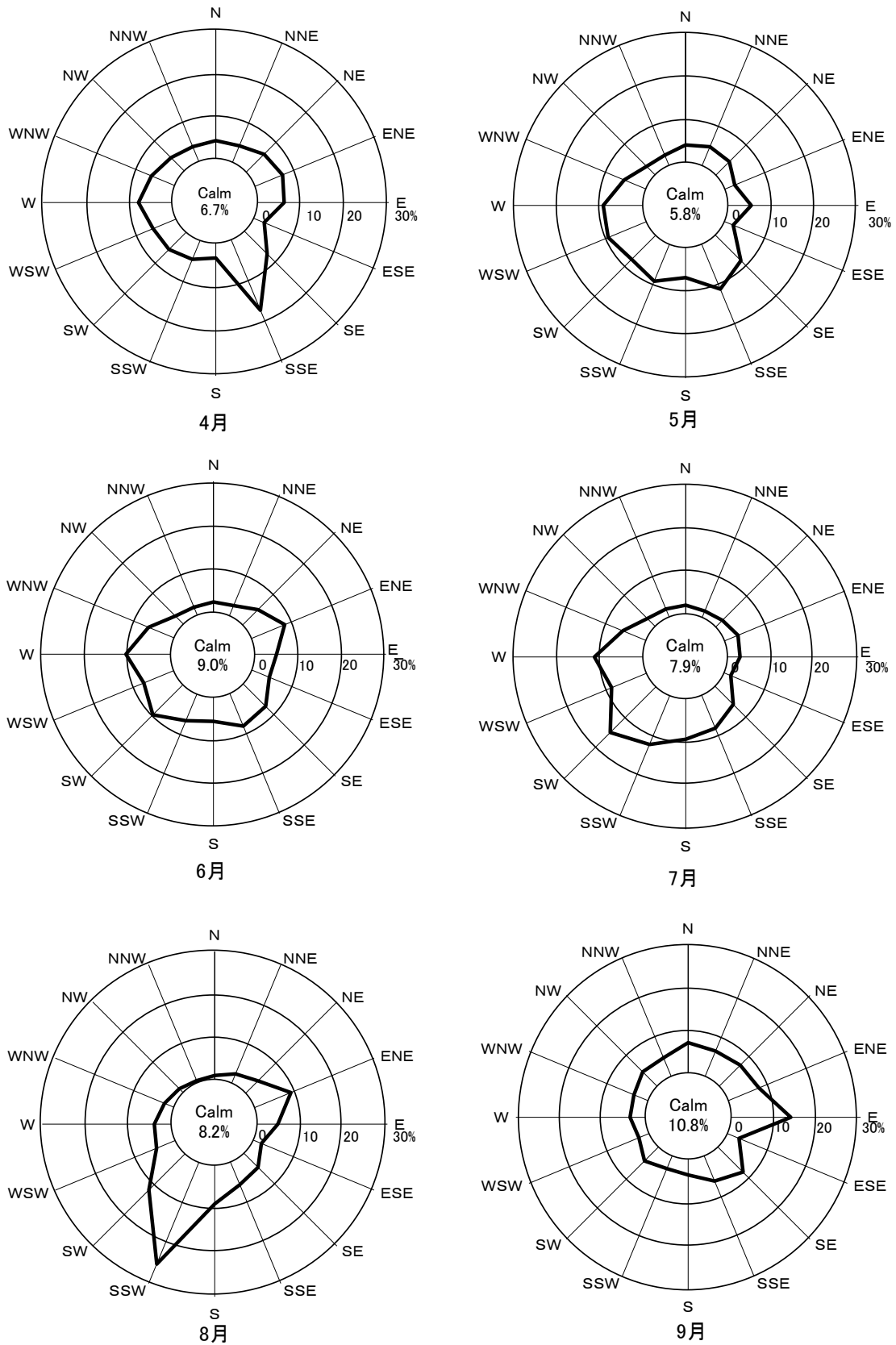
(3) 気象情報

熊取オフサイトセンター局、日根野浄水場局及び近大グランド局における気象観測結果及び風配図は、表Ⅲ-14及び図Ⅲ-5、図Ⅲ-6、図Ⅲ-7のとおりです。

表Ⅲ-14 気象観測結果

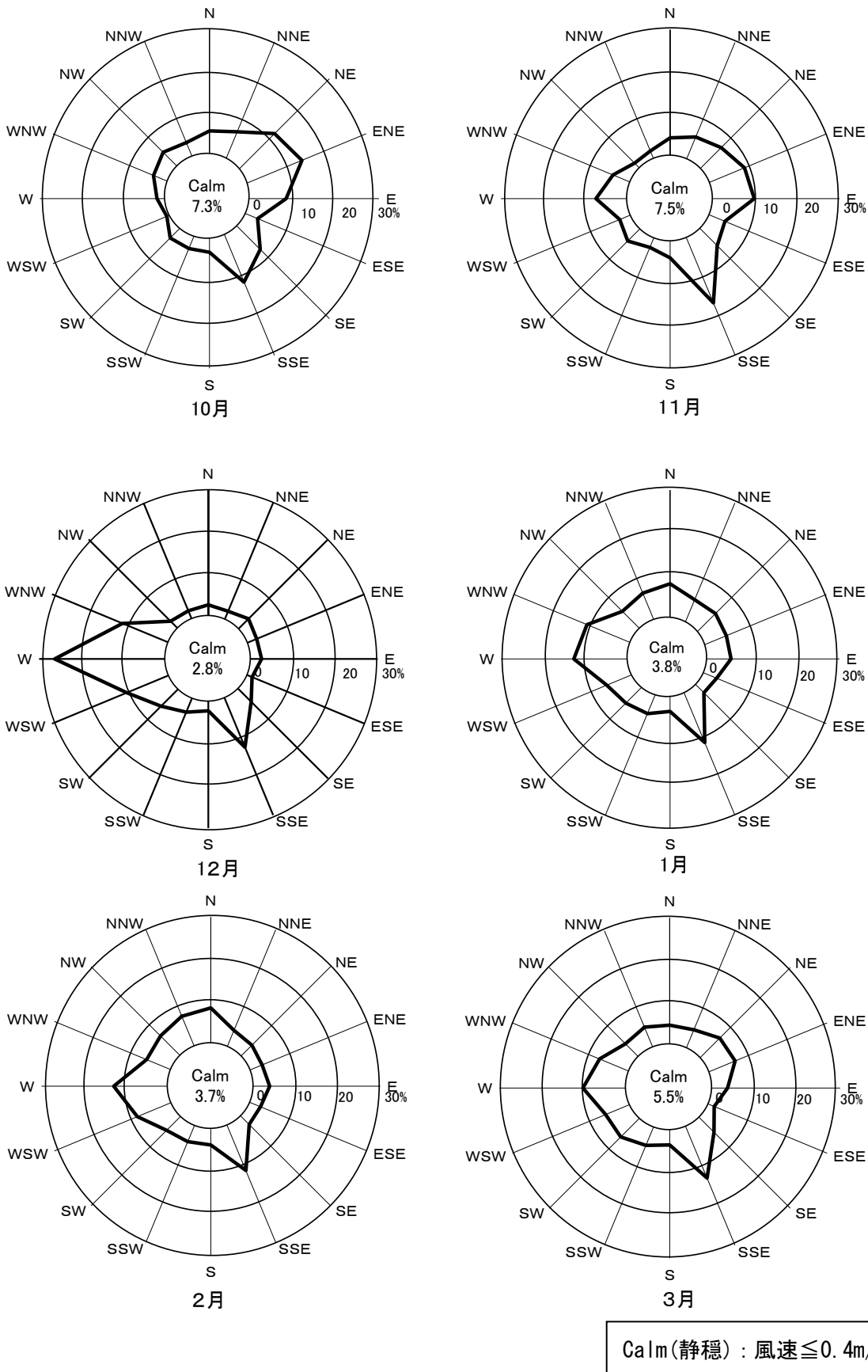
固定観測局	測定月	風速 (m/sec)		気温 (°C)			湿度 (%)			降水量 (mm)	備考
		平均値	最大値	平均値	最大値	最小値	平均値	最大値	最小値		
A01 熊取OFC	4月	1.7	8.2	13.9	24.0	2.6	67.7	98.2	17.2	65	
	5月	1.8	6.3	19.3	30.8	8.1	69.2	98.2	24.4	63	
	6月	1.6	6.6	23.4	33.2	17.2	80.2	98.1	32.8	53	
	7月	1.6	5.5	27.7	37.3	20.7	77.8	98.1	40.8	85	
	8月	2.1	10.3	27.6	35.2	19.2	82.7	98.3	54.0	326	
	9月	1.6	6.4	23.6	32.4	15.5	75.6	98.0	42.5	53	
	10月	1.9	9.2	18.8	28.7	7.7	78.0	98.4	35.3	193	
	11月	1.7	6.0	13.4	22.0	4.2	78.9	98.5	36.6	58	
	12月	2.7	9.9	6.6	16.7	-0.9	74.5	98.8	41.7	106	
	1月	2.4	7.9	5.8	14.3	-1.2	77.7	98.5	44.7	84	
	2月	2.3	7.8	6.4	18.2	-0.5	73.2	98.2	40.4	19	
	3月	2.1	7.5	9.6	22.4	0.7	74.7	98.4	17.7	158	
	年間	2.0	10.3	16.3	37.3	-1.2	75.9	98.8	17.2	1263	
過去10年間	1.9	20.0	16.3	37.2	-3.4	67.6	100.0	12.6	1228		
A07 日根野 浄水場	4月	1.7	7.0	13.8	23.4	2.8	68.6	98.3	17.4	70	
	5月	1.8	6.3	19.2	29.5	8.2	70.2	98.3	25.8	64	
	6月	1.6	7.0	23.2	32.2	17.5	81.2	98.1	33.8	54	
	7月	1.6	8.0	27.4	37.1	20.8	79.2	98.2	43.9	90	
	8月	2.0	10.9	27.5	34.8	19.4	83.6	98.3	53.9	330	
	9月	1.7	5.7	23.5	30.5	15.9	76.7	98.1	46.8	60	
	10月	2.0	9.8	18.8	28.6	8.3	78.3	98.4	38.6	213	
	11月	1.7	6.7	13.5	21.7	4.4	78.8	98.5	38.9	57	
	12月	2.5	9.0	6.6	16.6	-0.8	74.4	98.1	41.9	109	
	1月	2.4	7.9	5.9	14.1	-0.8	78.0	98.5	47.1	88	
	2月	2.2	7.5	6.4	17.5	-0.4	73.7	98.3	40.4	18	
	3月	2.0	7.5	9.5	22.8	0.8	75.5	98.5	20.0	168	
	年間	1.9	10.9	16.3	37.1	-0.8	76.5	98.5	17.4	1321	
過去10年間	2.0	14.5	16.4	36.4	-3.0	68.9	100.0	13.5	1270		
A12 近大 グランド	4月	1.3	5.8	15.1	26.7	3.3	59.4	97.6	13.9	52	
	5月	1.3	4.3	20.4	32.3	10.5	62.8	97.9	15.8	55	
	6月	1.3	5.3	24.7	34.5	18.1	71.1	97.6	29.0	52	
	7月	1.3	3.5	28.6	38.1	21.5	72.4	97.7	36.4	61	
	8月	1.4	6.2	28.6	35.7	21.0	76.4	97.9	42.3	223	
	9月	1.2	4.9	24.6	33.4	16.9	66.8	98.0	26.5	47	
	10月	1.3	5.7	19.9	29.5	8.0	70.0	97.9	26.5	99	
	11月	1.0	4.0	14.2	22.8	5.3	72.2	98.0	31.2	47	
	12月	1.6	4.5	6.7	16.5	-0.1	70.8	98.1	37.3	71	
	1月	1.4	5.0	6.1	14.5	0.2	74.5	98.1	42.7	74	
	2月	1.4	4.6	6.9	17.0	0.0	68.6	98.0	32.2	24	
	3月	1.3	5.4	10.2	24.0	0.7	69.8	98.3	20.8	147	
	年間	1.3	6.2	17.2	38.1	-0.1	69.6	98.3	13.9	952	
過去10年間	1.3	8.0	17.3	39.3	-3.4	62.7	100.0	9.3	1071		

1) 過去10年間：平成16年4月から平成26年3月までの測定値の平均値、最大値又は最小値

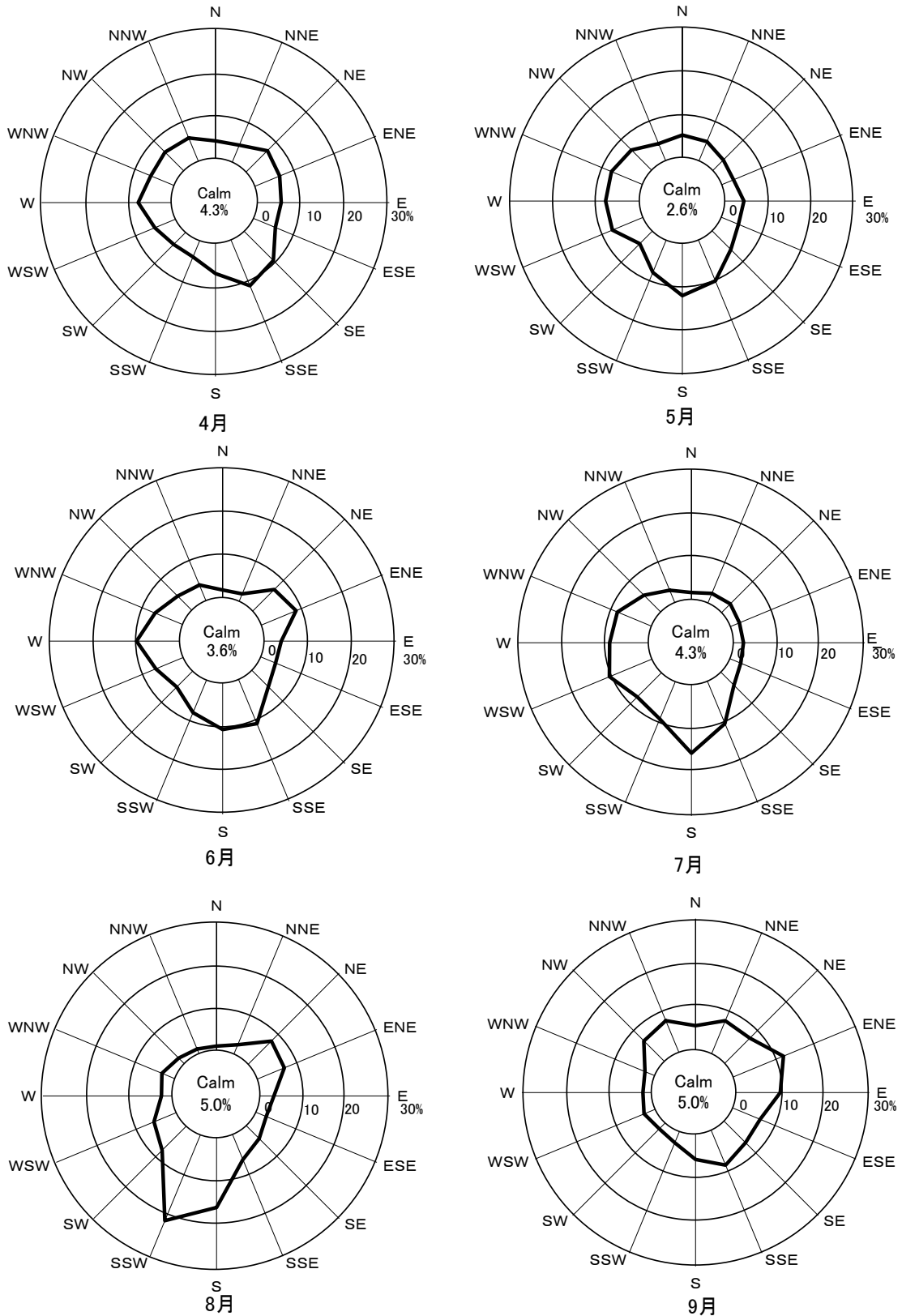


Calm (静穏) : 風速 ≤ 0.4m/sec

図Ⅲ-5(1) 風配図 (熊取オフサイトセンター局)

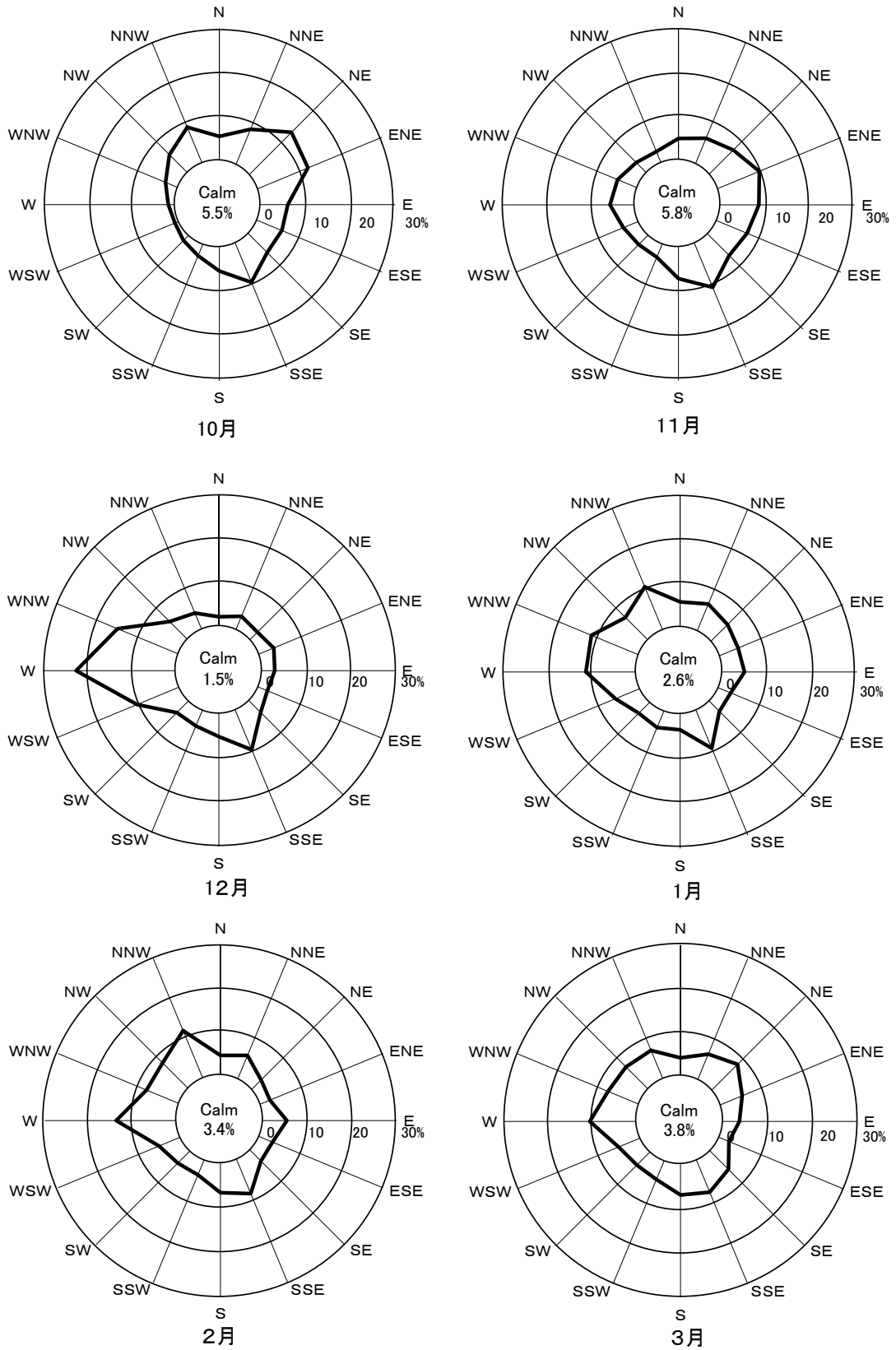


図Ⅲ-5(2) 風配図 (熊取オフサイトセンター局)



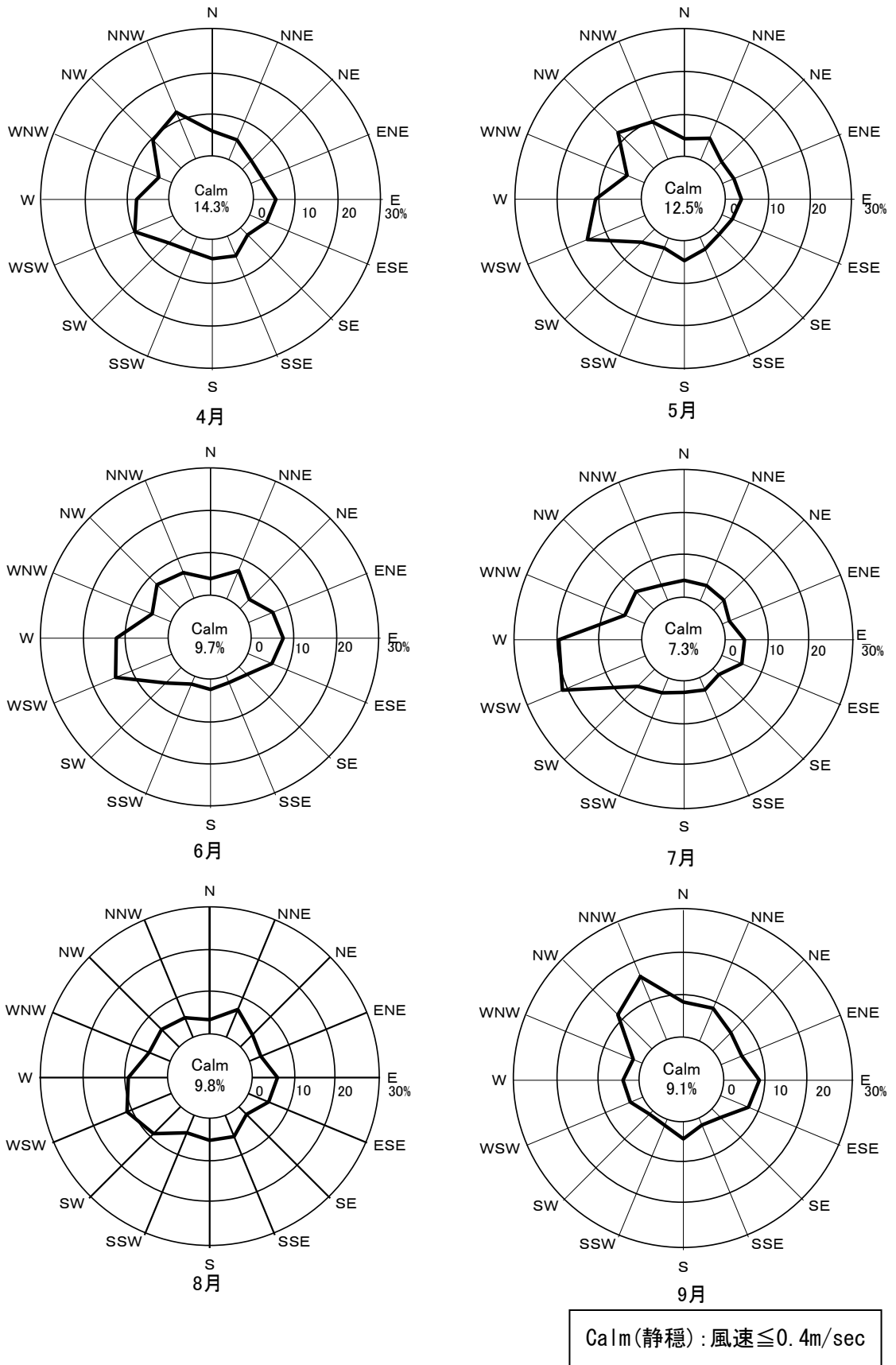
Calm (静穏) : 風速 ≤ 0.4m/sec

図Ⅲ-6(1) 風配図 (日根野浄水場局)

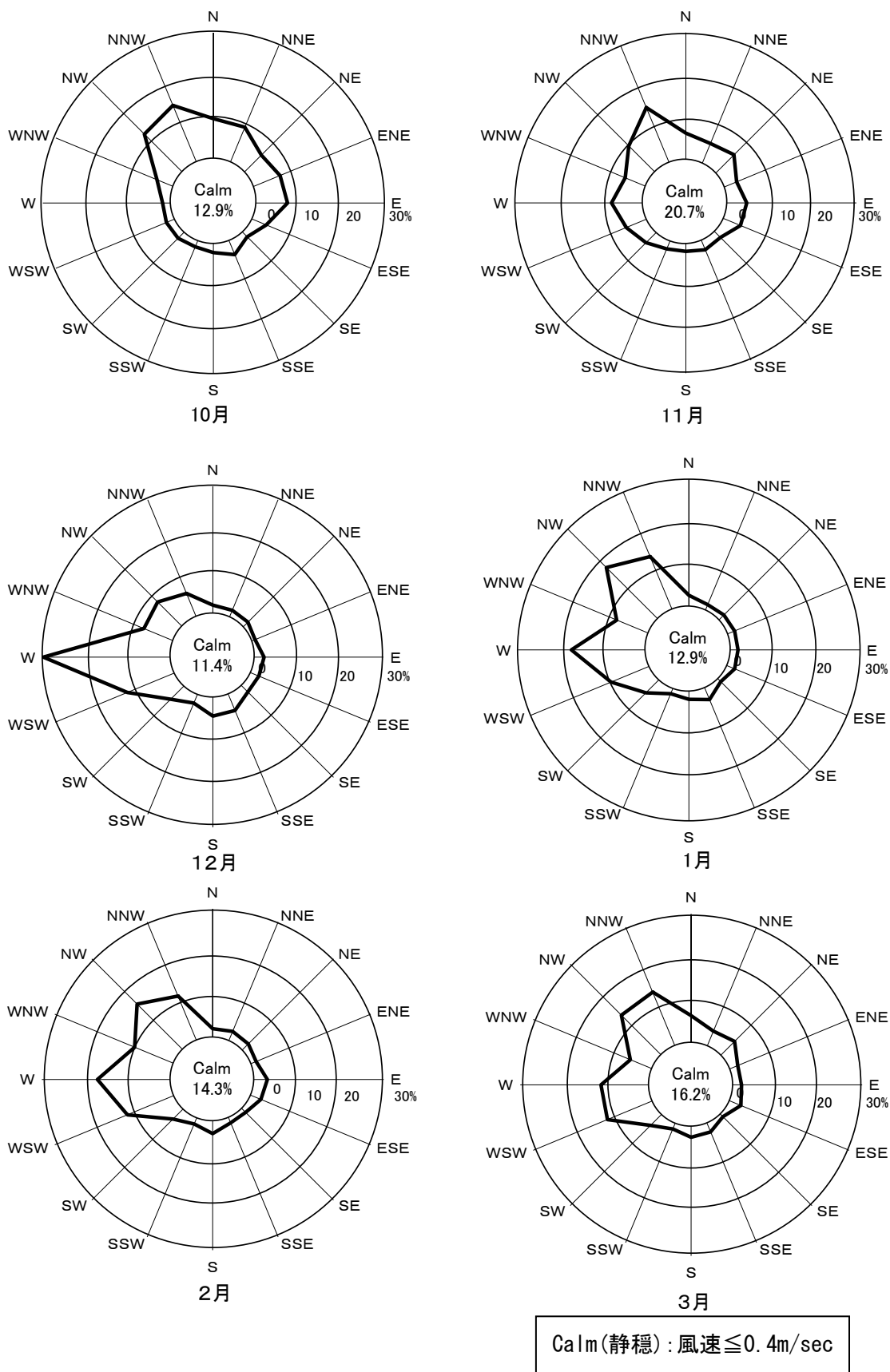


Calm(静穏) : 風速 ≤ 0.4m/sec

図Ⅲ-6(2) 風配図 (日根野浄水場局)



図Ⅲ-7(1) 風配図 (近畿大学グランド局)



図Ⅲ-7(2) 風配図 (近畿大学グランド局)

参 考 資 料

1	大阪府環境放射線評価専門委員会の概要	36
2	環境放射線監視計画書	37
3	空間線量率の測定状況	51
4	国内における環境放射線レベルについて	57
5	放射線・放射能の単位について	59
6	放射線被ばくの早見図	60

1 大阪府環境放射線評価専門委員会の概要

(1)設置目的

環境放射線の監視は、原子力施設周辺の放射線及び放射能の測定を連続して行い、地域住民の健康と安全の確保に資するとともに、原子力災害対策特別措置法に基づく異常事態発生の通報等があった場合、速やかに対応できるモニタリング体制を整備することを目的とするものであり、実施に当たっては、放射線等に関する専門的な知見が必要とされます。

このため、大阪府では、中立・公正な立場から実施計画の策定及び評価を行うため、学識経験者及び専門機関の職員を中心とした委員会を設置しています。

(2)委員会の構成

環境放射線監視業務の実施及び評価を行う上で必要な測定技術、分析技術及び結果に対する影響の評価、また、自然放射線（能）の挙動から原子力施設の安全評価等の各項目について、それぞれの専門家の立場から助言いただける方に委員を委嘱しています。

委員名簿

平成27年4月1日現在

所 属	役 職	氏 名
国立研究開発法人 放射線医学総合研究所 福島復興支援本部	プロジェクト サブリーダー	青 野 辰 雄
国立研究開発法人 日本原子力研究開発機構 関西光科学研究所 管理部 保安工務課	課 長	浅 野 善 江
近畿大学 原子力研究所	教 授	伊 藤 眞
大阪府立大学 地域連携研究機構 放射線研究センター	センター長 教 授	奥 田 修 一
原子力規制庁 熊取原子力規制事務所	原 子 力 保安検査官	久 保 剛
京都大学 原子炉実験所	准 教 授	高 橋 知 之
大阪大学大学院 医学系研究科	教 授	藤 堂 剛
原子燃料工業(株) 熊取事業所	部 長	松 浦 敬 三
大阪大学大学院 工学研究科	教 授	村 田 勲
大阪府立大学大学院 理学系研究科	教 授	八 木 孝 司
名古屋大学大学院 工学研究科	教 授	山 澤 弘 実

(50音順)

2 環境放射線監視計画書

環境放射線監視計画書

大阪府政策企画部危機管理室

目次

1	監視の目的	39
2	実施機関	39
3	対象原子力施設及び固定観測局	39
	(1) 対象原子力施設と監視地域	39
	(2) 固定観測局	39
4	測定項目	40
	(1) 連続測定項目	40
	(2) 環境試料等	41
5	測定方法	43
	(1) 環境放射線モニタリングシステムの構成	43
	(2) 測定方法	44
	(3) 測定値の表示方法等	45
	(4) 環境試料の検出目標値	46
6	測定結果の評価等	47
	(1) 測定結果の確認	47
	(2) 総合評価の実施	48
	(3) 結果の公表	48
	(4) 監視結果等の保存	48
	環境放射線監視計画 測定地点図	
	(1) 熊取町・泉佐野市地域	49
	(2) 東大阪市地域	50

1 監視の目的

原子力施設周辺の環境放射線の監視を行い、地域住民の健康と安全の確保に資するとともに、原子力災害対策特別措置法に基づく異常事態発生の通報等があった場合、速やかに対応できるモニタリング体制を整備することを目的とする。

2 実施機関

監視は大阪府が実施する。必要に応じて、府内各原子力事業者（次項目参照）と協力して監視する。

3 対象原子力施設及び固定観測局

(1) 対象原子力施設と監視地域

京都大学原子炉実験所（試験研究炉）
 原子燃料工業株式会社熊取事業所（核燃料加工施設）
 近畿大学原子力研究所（試験研究炉）……………東大阪市地域

} 熊取町・泉佐野市地域

(2) 固定観測局

各固定観測局（モニタリングステーション/ポスト）の名称等を表1に示す。

表1 固定観測局（モニタリングステーション/ポスト）

監視地域	熊取町地域						泉佐野市地域					東大阪市地域			
固定観測局 記号 番号	A 01	A 02	A 03	A 04	A 05	A 06	A 07	A 08	A 09	A 10	A 11	A 12	A 13	A 14	A 15
S：ステー ション P：ポスト	S	P	P	P	P	P	S	P	P	P	P	S	P	P	P
固定観測局	大阪府熊取オフサイトセンター	熊取町立西小学校	山の手台1号公園	アトム共同保育園	熊取町立南小学校	熊取町役場	泉佐野市日根野浄水場	大阪府立日根野高等学校	大阪府立佐野支援学校	泉佐野市立日根野小学校	泉佐野市大池グラウンド	近畿大学グラウンド	東大阪市立上小阪小学校	近畿大学原子力研究所北	近畿大学原子力研究所南

4 測定項目

(1) 連続測定項目

各固定観測局における連続測定項目を表2に示す。

表2 連続測定項目

●印：該当観測項目

監視地域		熊取町地域					泉佐野市地域					東大阪市地域				
固定観測局 記号 番号		A 01	A 02	A 03	A 04	A 05	A 06	A 07	A 08	A 09	A 10	A 11	A 12	A 13	A 14	A 15
空間放射線量率	低線量率 注) 1	●	●	●	●	●	●	●	●	●	●	●	●	●	●	●
	高線量率 注) 1	●	●	●	●	●	●	●	●	●	●	●	●	●	●	●
	中性子線量率	●						●								
大気中放射性物質	大気浮遊じん 注) 2	全放射能 α能	●					●					●			
		全放射能 β能	●					●					●			
	ヨウ素 注) 3	●						●					●			
気象情報	風向	●						●					●			
	風速	●						●					●			
	降水量	●						●					●			
	感雨	●						●					●			
	感雷	●						●					●			
	温度	●						●					●			
	湿度	●						●					●			
	気圧	●						●					●			
	日射量	●						●					●			
	放射収支	●						●					●			
大気安定度	●						●					●				

注) 1 平常時は低線量率の測定データを評価用とし、高線量率の測定データは参考用とする。

2 大気浮遊じんの供試量
約72 m³ (流量約200 L/分で6時間捕集 (詳細は表5参照))

3 ヨウ素の測定は緊急時に実施する。

(2) 環境試料等

① 積算線量

各固定観測局の敷地内に蛍光ガラス線量計を設置し、3ヶ月間毎に測定する。

② 環境試料

放射能分析に供する環境試料の調査概要を表3及び表4に示す。

表3 環境試料の調査概要（熊取町・泉佐野市域）

環境試料		採取地点	採取頻度 注) 1	試料採取量 (目安)	供試量 (目安)	測定項目 注) 2	備考
大気浮遊じん		熊取町：熊取オフサイトセンター	3ヶ月間毎	約 5.2×10^4 m ³ 注) 3		γ	
		泉佐野市：泉佐野市日根野浄水場					
陸 上	土 壤	熊取町：和田観測所	半年毎	約 2kg	約 100~150g	γ	
		泉佐野市：日根神社					
試 料	農 作 物	泉佐野市：日根野地区 (米・キャベツ)	年1回	約 5kg	約 2kg (米) 約 1.5kg (キャベツ)	γ	代表農産物等 収穫期に採取
	陸 水 (表層水)	熊取町：永楽ダム	半年毎	約 60L	約 30L	γ	
				約 2L	約 50~100mL	T	
		泉佐野市：大池		約 60L	約 30L	γ	
排 水 試 料	排 水	京都大学 排水口付近 原子炉実験所：注) 4	半年毎	約 60L	約 30L	γ	
		約 2L	約 1L	β			
	原子燃料工業(株) 熊取事業所：注) 5	半年毎	約 60L	約 30L	γ		
		約 2L	約 1L	β			
底 質	京都大学原子炉実験所・ 原子燃料工業(株)熊取事業所 ：雨山川 注) 6	半年毎	約 2kg	約 150~200g	γ		
			約 100g	約 0.5g	β		
			約 100g	約 20mg 注) 7	U		

注) 1 採取頻度

3ヶ月間毎：4~6月、7~9月、10~12月、1~3月、半年毎：4、10月、
米：9月、キャベツ：1月

2 測定項目

γ：γ線放出核種、β：全β放射能、T：トリチウム（三重水素）、U：ウラン

3 大気浮遊じんの供試量（約 5.2×10^4 m³）

流量約 200L/分で6時間毎ステップ送りにより計3ヶ月間捕集（詳細は表5参照）

4 排水口付近

京都大学原子炉実験所敷地内の最終貯留槽（今池）の排水口付近（敷地境界の外側）

5 排水口付近

事業所排水の公共用水域（水路）への流出地点付近

6 雨山川

両事業所の排水口に通じる公共用水域（水路）との合流地点付近

7 ウラン分析の底質供試量（約 20 mg）

中性子放射化分析の値（誘導結合プラズマ（ICP）質量分析法の値は約 0.1g）

表 4 環境試料の調査概要（東大阪地域）

環境試料	採取地点	採取頻度 注) 1	試料採取量 (目安)	供試量 (目安)	測定項目 注) 2	備考	
大気浮遊じん	近畿大学グラウンド	3ヶ月間毎	約 $5.2 \times 10^4 \text{ m}^3$ 注) 3		γ		
陸上試料	土 壤	上半毎	約 2kg	約 100~150g	γ		
	陸 水 (飲料水)	上半毎	約 60L	約 30L	γ		
			約 2L	約 50~100mL	T		
指標生物	近畿大学構内 (キョウチクトウ)	上半毎	約 2kg	約 1kg	γ		
排水試料	排 水	近畿大学原子力研究所前 道路 マンホール 注) 4	上半毎	約 60L	約 30L	γ	
			下半毎	約 2L	約 1L	β	
	底 質	近畿大学原子力研究所前 道路 マンホール 注) 4	上半毎	約 2kg	約 150~200g	γ	
			下半毎	約 100g	約 0.5g	β	

注) 1 採取頻度

3ヶ月間毎：4~6月、7~9月、10~12月、1~3月、半年毎：4、10月

2 測定項目

 γ ： γ 線放出核種、 β ：全 β 放射能、T：トリチウム（三重水素）、U：ウラン3 大気浮遊じんの供試量（約 $5.2 \times 10^4 \text{ m}^3$ ）

流量約 200L/分で6時間毎ステップ送りにより計3ヶ月間捕集（詳細は表5参照）

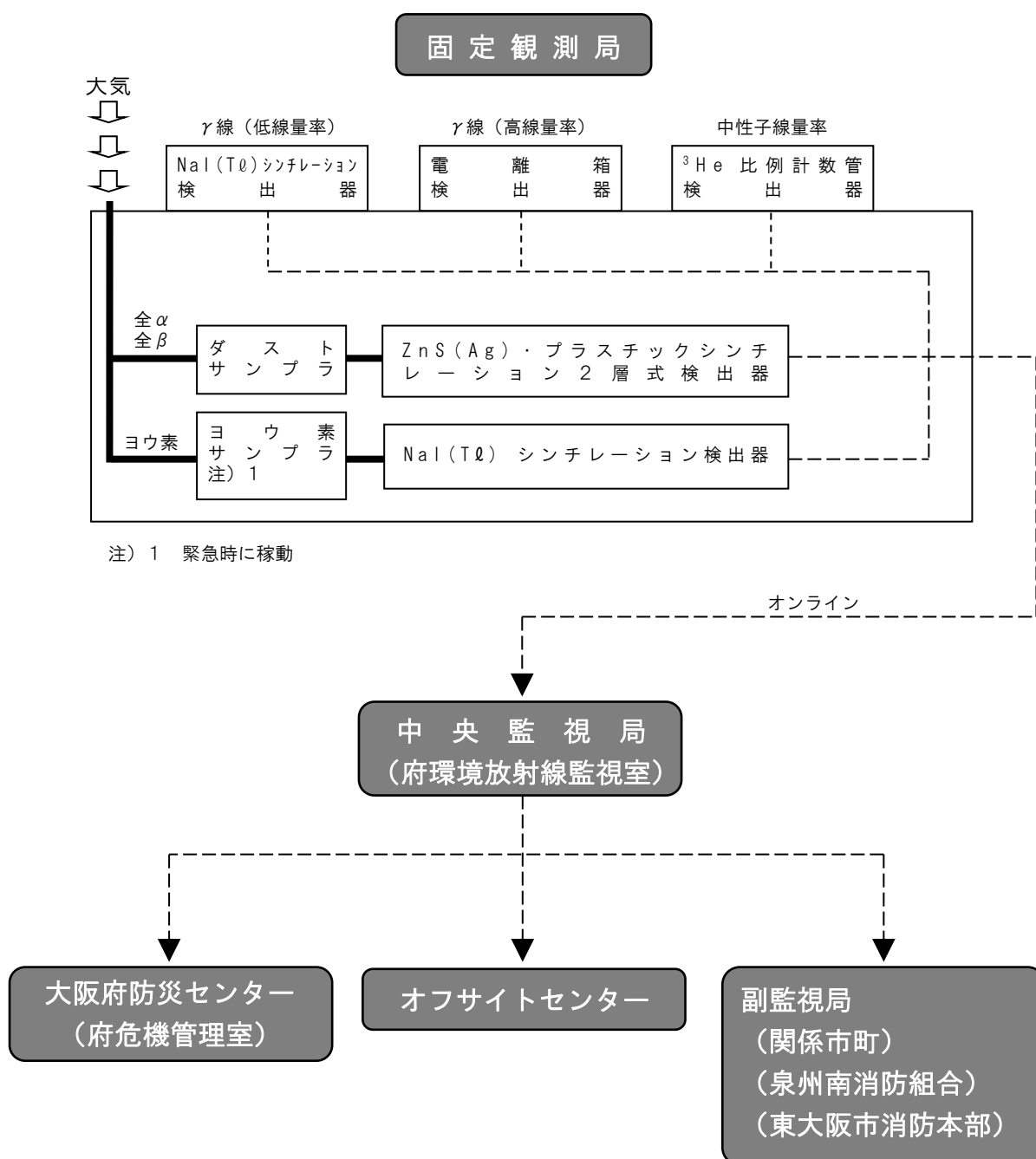
4 近畿大学原子力研究所前道路マンホール

事業所排水の下水管への流出地点付近

5 測定方法

(1) 環境放射線モニタリングシステムの構成

環境放射線モニタリングシステムの構成を図1に示す。各固定観測局で測定されたデータはテレメータシステムにより中央監視局（府環境放射線監視室）へ送信し、集中監視を行うとともに、大阪府防災センター（府危機管理室）、オフサイトセンター及び副監視局（関係市町、泉州南消防組合、東大阪市消防本部）へ伝送する。



注) 1 緊急時に稼働

図1 環境放射線モニタリングシステムの構成

(2) 測定方法

連続測定項目及び環境試料の測定方法を表5に示す。

表5 測定方法

測定項目		測定装置	測定方法
空間放射線	連続測定 空間線量率(γ線)	空間線量率測定装置	測定法：文部科学省放射能測定法シリーズ17「連続モニタによる環境γ線測定法」に準拠 検出器：NaI(Tl)シンチレーション検出器(低線量率) 電離箱検出器(高線量率) 検出器の位置：地上約3.5mの高さ、又は屋上から約4.3mの高さ 校正線源： ⁶⁰ Co、 ¹³⁷ Cs
	中性子線量率	中性子線量率測定装置	検出器： ³ He比例計数管検出器 検出器の位置：地上3.5mの高さ 校正線源： ²⁵² Cf
	積算線量	積算線量測定装置	測定法：文部科学省放射能測定法シリーズ27「蛍光ガラス線量計を用いた環境γ線測定法」に準拠 検出器：蛍光ガラス線量計、蛍光ガラス線量計測定装置 収納箱の位置：地上又は屋上から約1mの高さ 校正線源： ¹³⁷ Cs
環境	連続測定 大気浮遊じん中全α・全β放射能	ダストモニタ	測定法：文部科学省「大気中放射性物質のモニタリングに関する技術参考資料」に準拠 検出器：ZnS(Ag)・プラスチックシンチレーション2層式検出器(注)1 流量：約200L/min 集じん器の位置：地上2mの高さ 捕集方法：移動ろ紙式(6時間毎ステップ送り) 捕集材：HE-40T長尺ろ紙 校正線源： ²⁴¹ Am(α線)、 ³⁶ Cl(β線)
	ヨウ素(注)2	ヨウ素モニタ	測定法：文部科学省「大気中放射性物質のモニタリングに関する技術参考資料」に準拠 検出器：NaI(Tl)シンチレーション検出器 流量：約50L/min 集じん器の位置：地上2mの高さ 捕集時間：6時間 捕集材：活性炭カートリッジ(TEDA添着) 校正線源： ¹³¹ I模擬線源(封入核種 ¹³³ Ba、 ¹³⁷ Cs)
試料	γ線放出核種	γ線スペクトル分析装置	試料採取法：文部科学省放射能測定法シリーズ16「環境試料採取法」に準拠 前処理法：文部科学省放射能測定法シリーズ13「ゲルマニウム半導体検出器等を用いる機器分析のための試料の前処理法」に準拠 測定法：文部科学省放射能測定法シリーズ7「ゲルマニウム半導体検出器によるガンマ線スペクトロメトリー」に準拠
	全β放射能	低バックグラウンドガスフロー計数装置	試料採取法：文部科学省放射能測定法シリーズ16「環境試料採取法」に準拠 測定法：文部科学省放射能測定法シリーズ1「全ベータ放射能測定法」に準拠
	トリチウム	低バックグラウンド液体シンチレーション測定装置	試料採取法：文部科学省放射能測定法シリーズ16「環境試料採取法」に準拠 分析法：文部科学省放射能測定法シリーズ9「トリチウム分析法」に準拠
	ウラン	γ線スペクトル分析装置	試料採取法：文部科学省放射能測定法シリーズ16「環境試料採取法」に準拠 分析法：中性子放射化分析法(注)3

注) 1 全αはZnS(Ag)シンチレータで、全βはプラスチックシンチレータで検出する。
 2 ヨウ素の測定は緊急時に実施する。表内の条件は初動対応を示したもので、「大阪府モニタリング本部」が設置されたときは国の指導・助言に基づいて臨機応変に対応するとともに、「緊急時モニタリングセンター」が設置されたときは、国の統括の下、緊急時モニタリング実施計画等に基づいて対応する。
 3 中性子照射を依頼している試験研究炉が利用できない場合は、誘導結合プラズマ(ICP)質量分析法(文部科学省放射線測定法シリーズ14「ウラン分析法」)により測定する。

(3) 測定値の表示方法等

測定値の表示方法等を表6に示す。

表6 測定値の表示方法等

測定項目		単位 注) 1	表示方法	評価対象データ	備考	
空間 放射 線	連続 測定	空間線量率 (γ 線)	nGy/h	整数	1 時間値 (2分毎に収集)	各月毎及び年間の平均値、最大値、 最小値、有効測定時間、平常の変動 幅の超過件数を算出
		中性子線量率	nSv/h			
	積算線量	μ Gy /日数		四半期毎及び 年間の積算値 注) 2	四半期毎の値は91日に、年間の値は 365日に換算	
環境 放射 線 出 核 種 試 料	連続 測定	大気浮遊じん中 全 α ・全 β 放射能	Bq/m ³	有効数字 2桁	集じん終了時から6 時間減衰後の濃度 注) 3	各月毎及び年間の平均値、最大値、 最小値、有効測定時間、平常の変動 幅の超過件数を算出
		ヨウ素	Bq/m ³			
	γ 線	土壌	Bq/kg(乾)	試料毎の濃度		
		農作物	Bq/kg(生)			
	出 核 種	陸水・排水	mBq/L			
		底質	Bq/kg(乾)			
	全 α 放射 能	排水	Bq/L			
		底質	Bq/kg(乾)			
	トリチウム (陸水)	mBq/L				
ウラン (底質)	μ g/g(乾)					
気 象 情 報	風向	(16方位)	(英文字)			
	風速	m/sec	小数 第1位	各月毎及び年間の平均値、最大値を 算出		
	気温	°C	整数	各月毎及び年間の平均値、最大値、 最小値を算出		
	相対湿度	%				
	降水量	mm		各月毎及び年間の総量を算出		

注) 1 参考資料5「放射線・放射能の単位について」(p.59)参照。
 2 1地点につき3個の蛍光ガラス線量計で測定し、その3個の平均値を測定値とする。
 3 「6時間捕集・6時間減衰後の値」とする。

(4) 環境試料の検出目標値

表7に示す各環境試料の検出目標値は、「大阪府環境放射線評価専門委員会」の指導・助言に基づいて設定したものである。

表7 環境試料中の放射性核種の検出目標値

環境試料	単位	γ線放出核種					T	U
		⁵⁴ Mn	⁶⁰ Co	¹³⁴ Cs	¹³⁷ Cs	¹⁴⁴ Ce		
大気浮遊じん	mBq/m ³	0.08	0.08	0.08	0.08	0.3	—	—
土 壤	Bq/kg 乾	2	2	2	1	7	—	—
農作物 (キャベツ)	Bq/kg 生	0.4	0.4	0.4	0.4	1.5	—	—
農作物 (米)	Bq/kg 生	0.4	0.4	0.4	0.4	1.5	—	—
指標生物 (キョウチクトウ)	Bq/kg 生	0.4	0.4	0.4	0.4	1.5	—	—
陸 水 (表層水、飲料水)	mBq/L	8	8	8	8	40	1000	—
排 水	mBq/L	8	8	8	8	40	—	—
底 質	Bq/kg 乾	2	2	2	1	7	—	—
	μg/g 乾	—	—	—	—	—	—	0.008

注) Mn: マンガン、Co: コバルト、Cs: セシウム、Ce: セリウム、T: トリチウム(三重水素)、U: ウラン
 検出目標値: 原子力安全委員会「環境放射線モニタリング指針」を参考に設定した。
 U(ウラン)の数値: ICP質量分析法の検出目標値であり、中性子放射化分析法の検出目標値ではない。

6 測定結果の評価等

(1) 測定結果の確認

数値が「平常の変動幅」を外れたものについては、その要因を次のステップ1から順に確認し、表8に示される異常要因に分類する。

○ステップ1……測定系の異常

小規模の異常の兆候、並びに他の測定系統等との共通性の有無を確認する。また、発生頻度、継続時間、時刻等の詳細データ及び該当機器を点検する。

○ステップ2……気象の影響

異常発生時刻における気象状況（降雨、降雪、雷等）を確認する。

○ステップ3……核実験等の影響

広域的な測定値の上昇及び核種分析での異常値の有無を確認する。このとき、核実験や府外原子力施設における事故等の有無も併せて確認する。

○ステップ4……医療・産業用放射性同位元素等の影響

同一地点において、他の測定系統との同時変動の有無や周辺状況等を確認する。事象が継続している場合は、現場確認も行う。

○ステップ5……原子力施設からの影響

原子力事業者から提供された情報や気象情報に基づいて、原子力施設からの影響の有無を確認する。

○ステップ6……統計的変動・その他

ステップ1～5に該当せず、非常にまれな事象（標準偏差の3倍を超える事象発生頻度が0.3%以下）である場合は、その他に分類する。

なお、中性子線量率（1時間値）については、原子力施設からの漏えいの早期発見を主な目的としているため、検出限界値を環境レベルと有意に区別できる値（10 nSv/h）に設定していることから、数値が検出されたときにステップ1、ステップ5、ステップ6について要因を検証する。

■「平常の変動幅」の算出方法

空間放射線量率（ γ 線）（1時間値）及び大気浮遊じん中の全 α ・全 β 放射能濃度（6時間捕集・6時間減衰後の値）の「平常の変動幅」は、過去の測定結果（最大10年間）から次式に従い算出する。環境試料等の検出限界値未満のデータを含んでいるもの及びデータ数が少ないものについては、過去の測定結果（最大10年間）の最大値と最小値を「平常の変動幅」とする。

平常の変動幅＝平均値±（標準偏差の3倍）

標準偏差＝分散の平方根

分散＝ $\sum (\text{平均値} - \text{各測定値})^2 / (n - 1)$

平均値：過去の測定値の全平均値

n：過去の測定データ数

表8 測定データ異常要因と対処

異常要因	現象	対応
測定系の異常	測定値の変動（上昇、下降、喪失、ドリフト、突発的な変化等） 【特徴】 ・再現するが多い。 ・特定の箇所で発生する。 ・機器の故障では、大きく変動する機会が多い。	○機器の異常である事を確認し、原因を究明する。 【検証手順】 ・環境放射線監視室へ転送されたデータから、状況（発生場所、時刻、頻度（再現状況）、測定レベル、他の観測項目での発生状況等）を一次的に評価する。 ・保守業者に対して機器点検を行うよう指示する。 ・保守業者からの回答を受け、必要であれば修理等の指示を出す。
気象の影響	測定値の変動 【特徴】 ・降雨（降雨中ゆるやかな上昇） ・降雪（増加と減少が入り混じる） ・気温（ドリフト現象） ・雷（突発的に増加） ・積雪（遮蔽効果により減少）	○測定値が変動した時刻の気象データを確認し、気象要因による自然放射線レベルの変動であることを判断する。 【留意事項】 ・自然放射線レベルの変動の特徴をパターン化し、整理しておく。 ・雷による突発的な増加の場合は、機器の耐ノイズ性の強化の必要性を判断する。 ・気温の変化によるドリフト現象は、測定装置の特性や不良に起因する機会が多い。
核実験等の影響	測定値の上昇 【特徴】 ・核実験の場合、数日後に変動が現れる。 ・経過時間にほぼ比例して増加する。	○土壌等にて人工核種の蓄積状況を監視する。
医療・産業用放射性同位元素等の影響	測定値の上昇 【特徴】 ・置荷物（定常的） ・移動車（一時的上昇） ・人（一時的上昇）	○異常時の発生時における現場の状況を把握する（非破壊検査の実施の有無、放射性物質の輸送の有無）。 ○当該固定観測局の各測定装置（空間線量率測定装置（低・高線量率）、ダストモニタ、積算線量測定装置等）の応答状況及び配置場所等を比較する。 ○他の固定観測局の状況と比較する。
原子力施設からの影響	測定値の上昇 【特徴】 ・特に風下方向軸で上昇する。	○原子力事業者から提供された情報に基づき、原子力施設からの影響の有無を確認する。 ○関連情報（府・原子力事業者等の測定データ、気象情報等）を収集し、確認する。 ○空間線量率、核種濃度の推移に注目する。

(2) 総合評価の実施

監視結果については、学識経験者等で構成される「大阪府環境放射線評価専門委員会」の指導・助言に基づいて総合評価を行う。

また、原子力事業者に対して、監視結果を評価する上で必要な資料の提供を依頼する。

(3) 結果の公表

上半期分及び1年間分の測定結果を公表する。

(4) 監視結果等の保存

監視結果は10年間保存する。採取した環境試料は、評価を終えるまでの間、分析機関にて保管する。

【環境放射線監視計画書の改訂履歴】

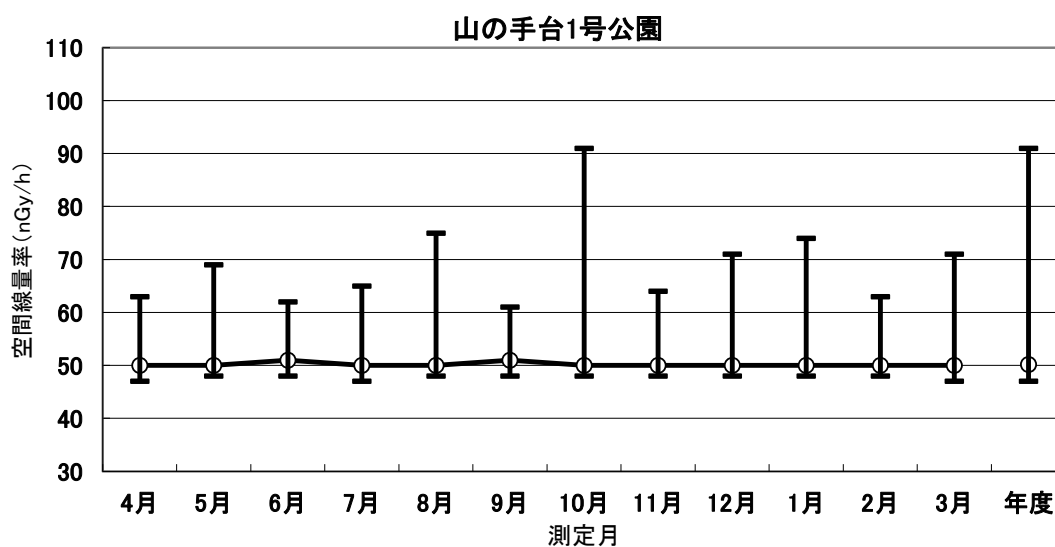
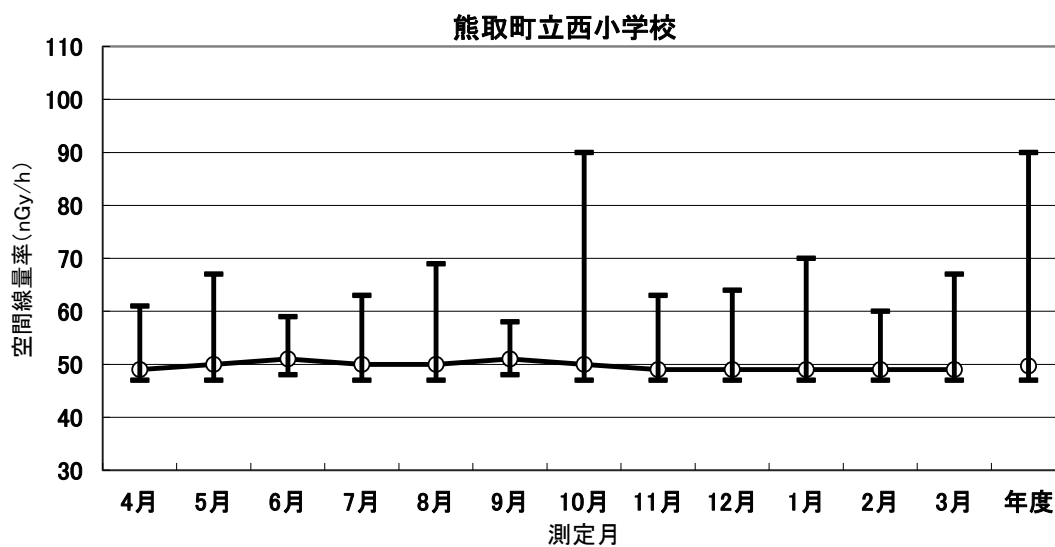
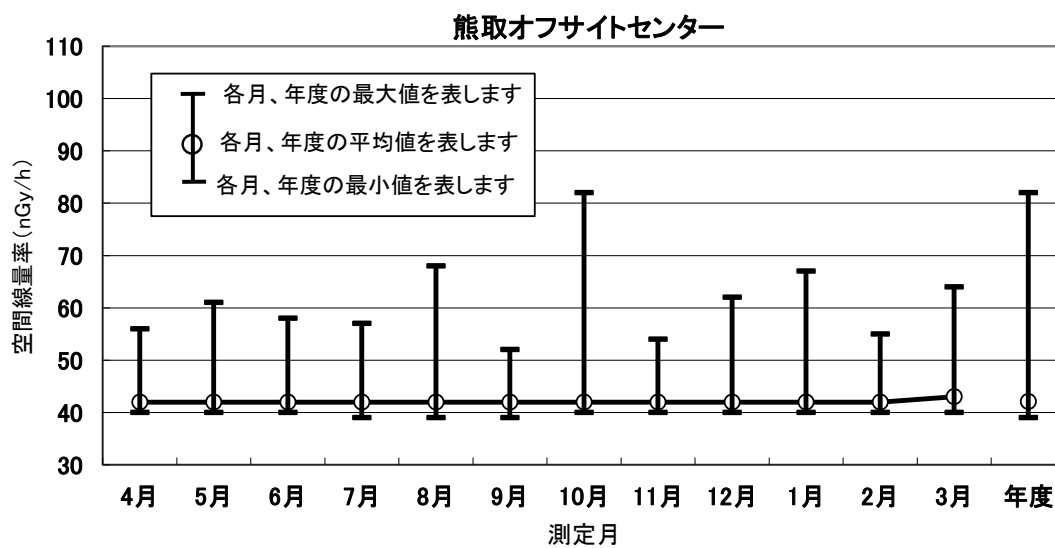
- ・平成26年1月22日策定（平成14年度～25年度は年次計画として策定してきた。）
- ・平成26年12月19日改訂

(地図 p.49 [熊取町・泉佐野市] を挿入)

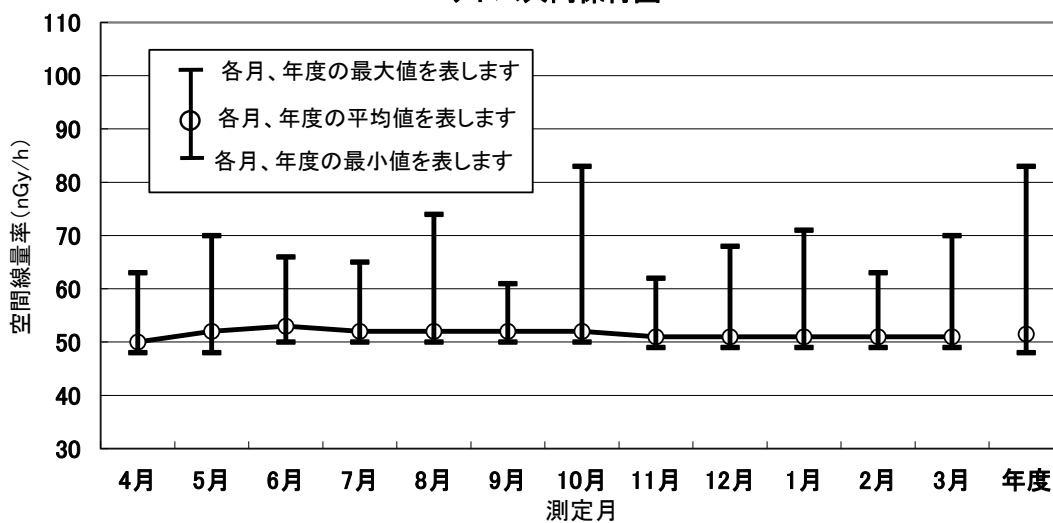
(地図 p.50 [東大阪市] を挿入)

3 空間線量率の測定状況

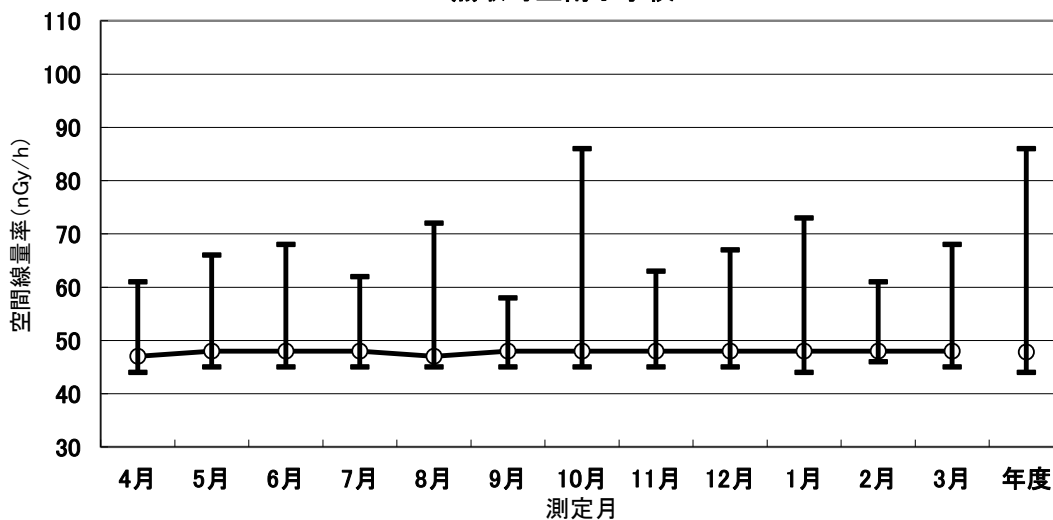
(1) 熊取町地域



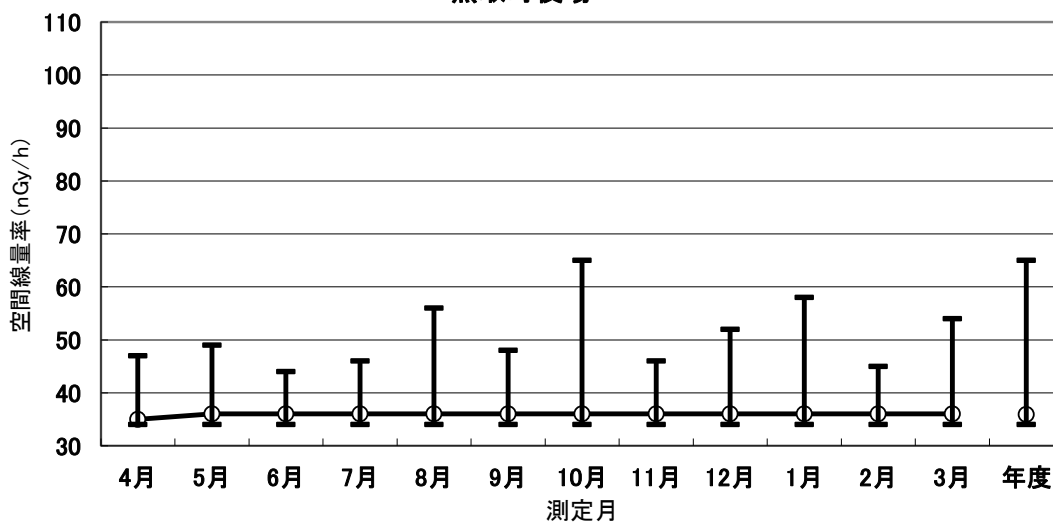
アトム共同保育園



熊取町立南小学校

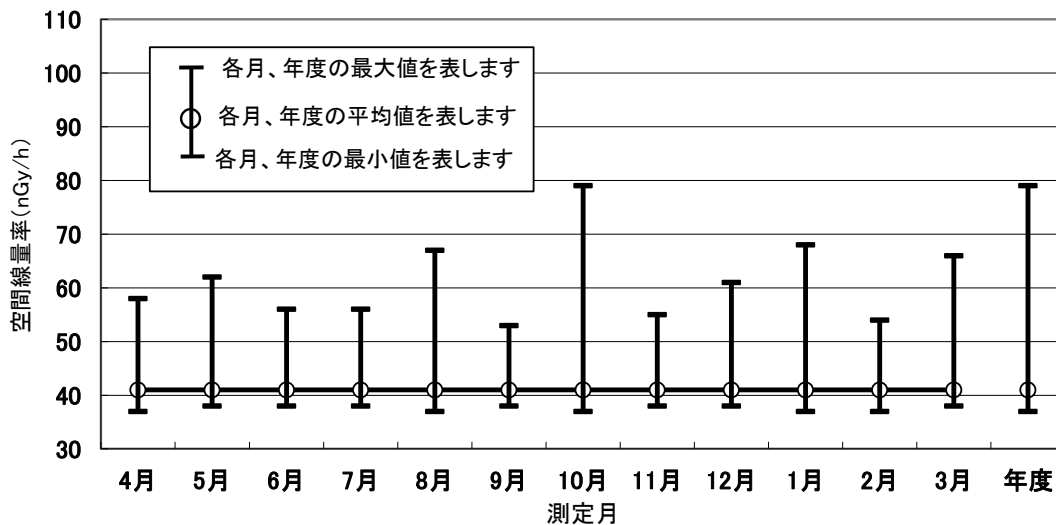


熊取町役場

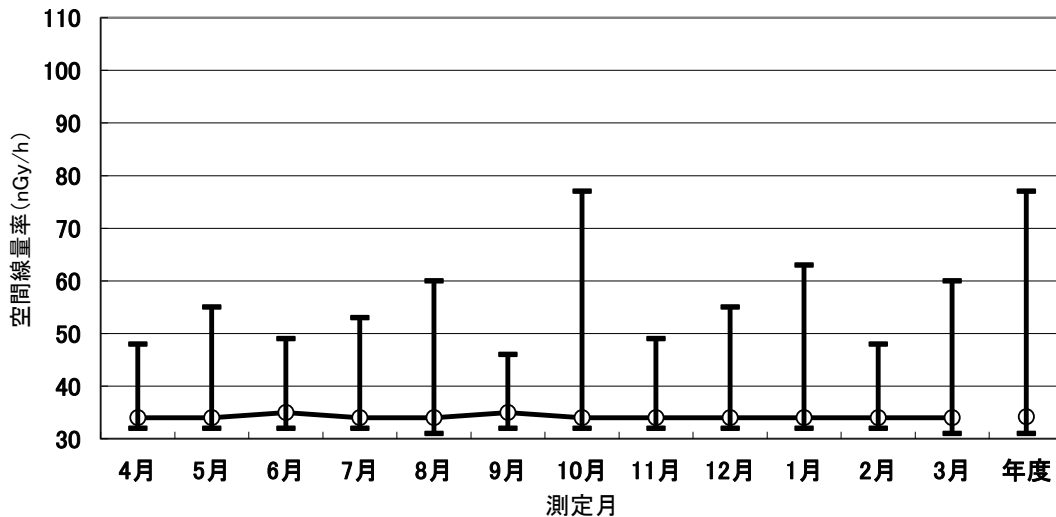


(2) 泉佐野市地域

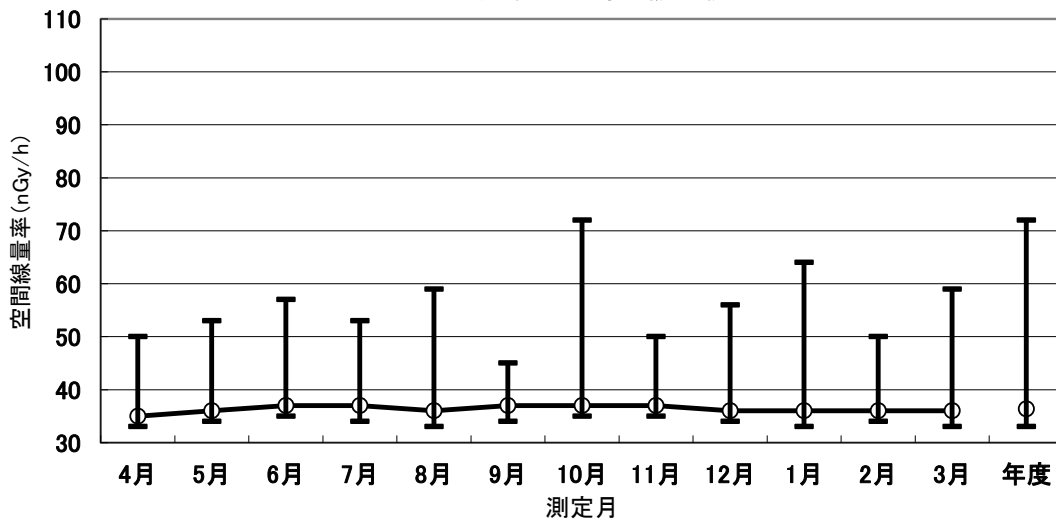
泉佐野市日根野浄水場



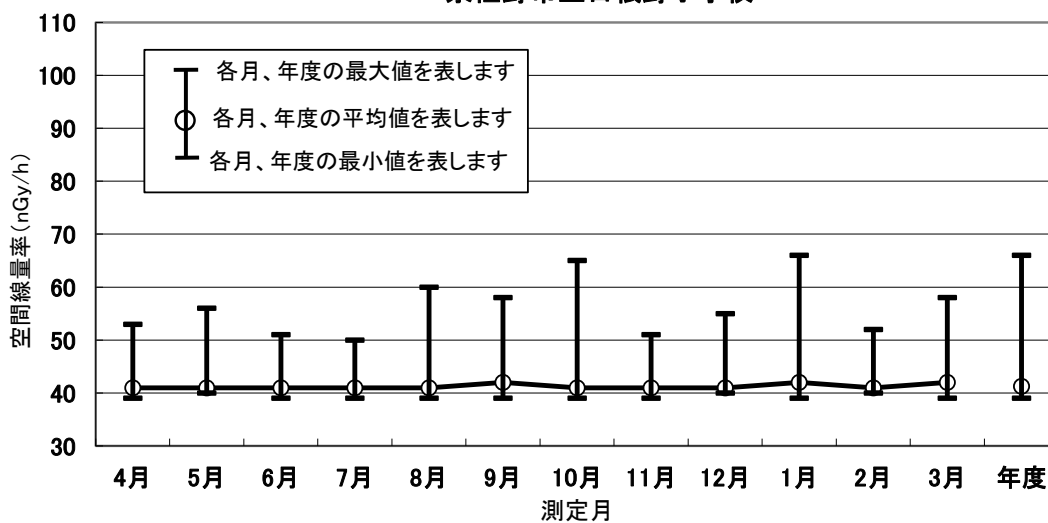
大阪府立日根野高等学校



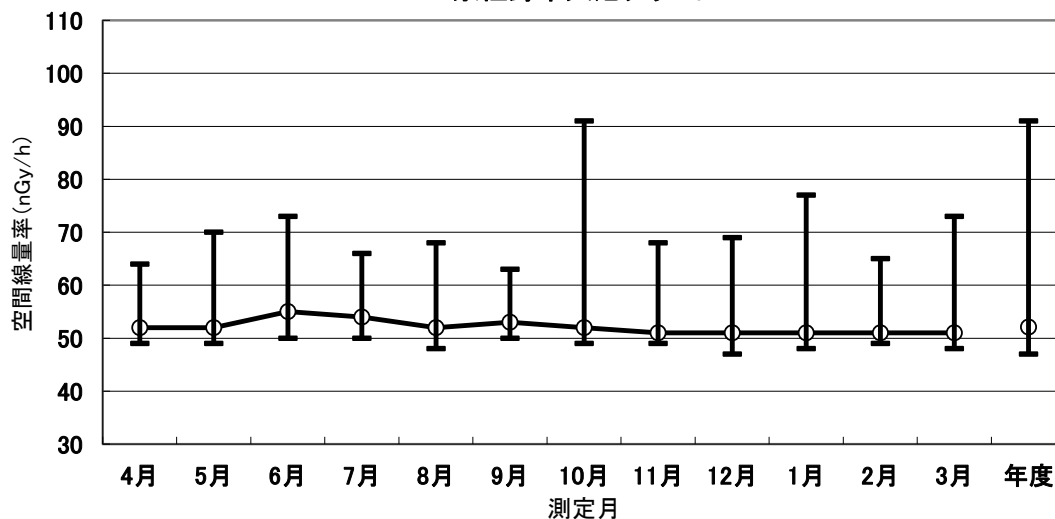
大阪府立佐野支援学校



泉佐野市立日根野小学校

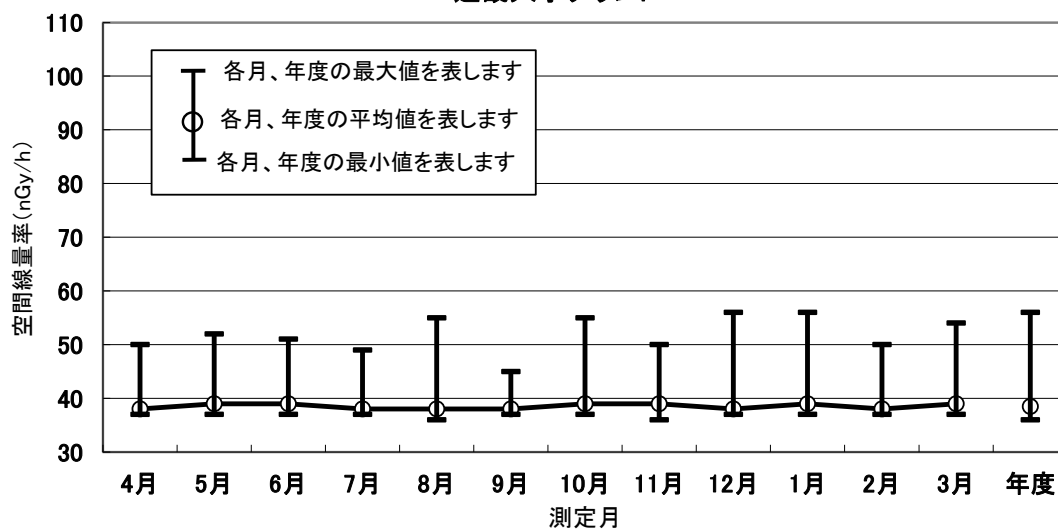


泉佐野市大池グランド

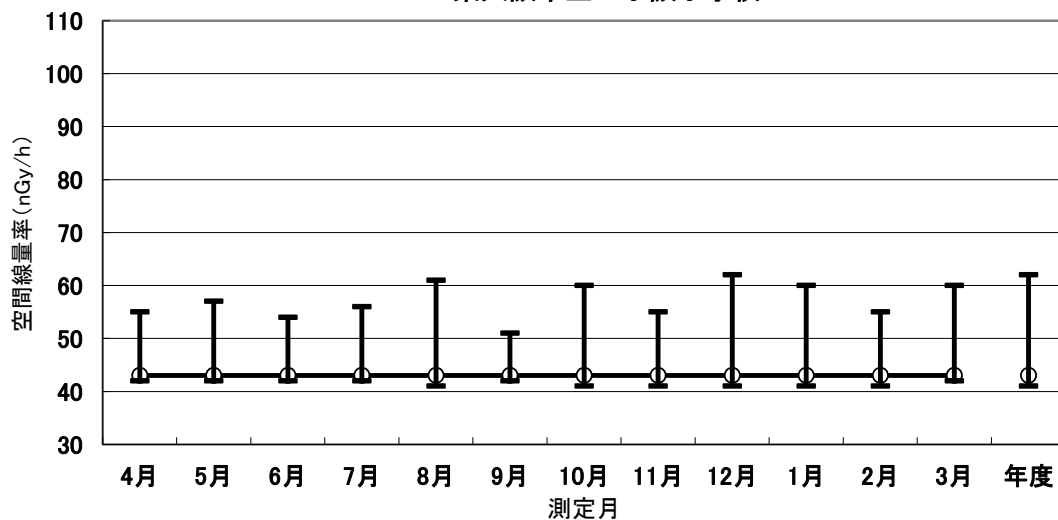


(3) 東大阪市地域

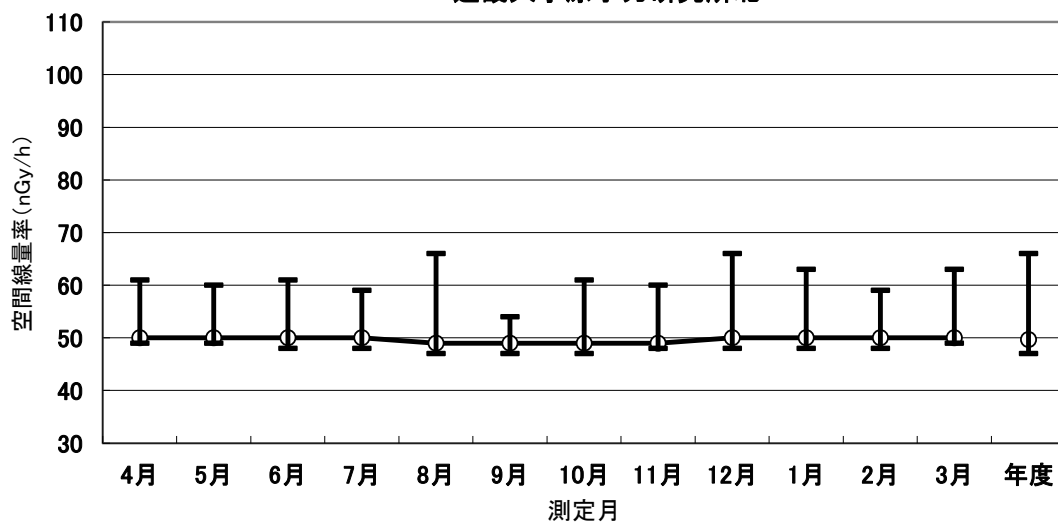
近畿大学グランド



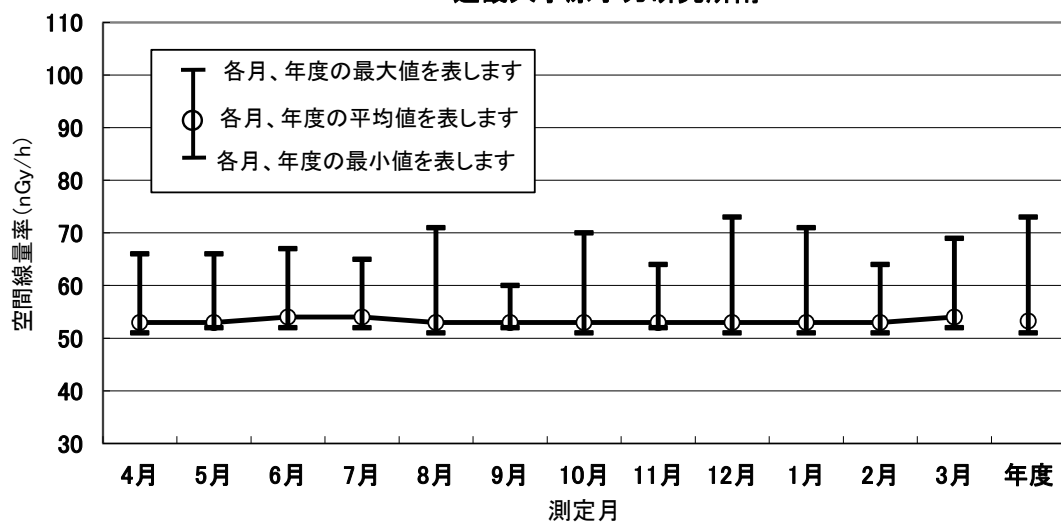
東大阪市立上小阪小学校



近畿大学原子力研究所北



近畿大学原子力研究所南



4 国内における環境放射線レベルについて

原子力規制庁の委託事業による（公財）日本分析センターの「放射能測定調査結果報告書」「環境放射能水準調査結果報告書」等を編集したデータベースを利用して 2013 年度（最新の全国データ調査年度、東京電力福島第一原子力発電所事故の影響を含む）のデータを抽出し、参考として対象試料の環境放射線レベルをまとめたものです。また、2014 年 4 月から 2015 年 3 月に大阪府が測定及び分析した結果についても併記しました。

(1) 空間線量率（全国データ調査年度：2013 年度）

(単位：nGy/h)

調査対象	最大値	平均値
全国	801	54
大阪府	91	44

(2) 環境試料中の放射能

調査結果は、全国（未実施分は除く）のうち対象となる試料を調査している地域の分析結果をまとめたものです。

① 大気浮遊じん（全国データ調査年度：2013 年度）

(単位： $\times 10^{-3}\text{Bq/m}^3$)

調査対象	核種名	最大値	平均値
全国	^{137}Cs	4.1	0.24
	^7Be	12.1	3.4
大阪府	^{137}Cs	LTD	LTD
	^7Be	3.9	3.0

② 土壌（全国データ調査年度：2013 年度）

(単位：Bq/kg)

調査対象	核種名	最大値	平均値
全国	^{137}Cs	1300	58.4
	^7Be	57	13.3
	^{40}K	1300	456
大阪府	^{137}Cs	6.3	3.6
	^7Be	LTD	LTD
	^{40}K	960	723

③ 陸水（全国データ調査年度：2013 年度）

(単位： $\times 10^{-3}\text{Bq/L}$)

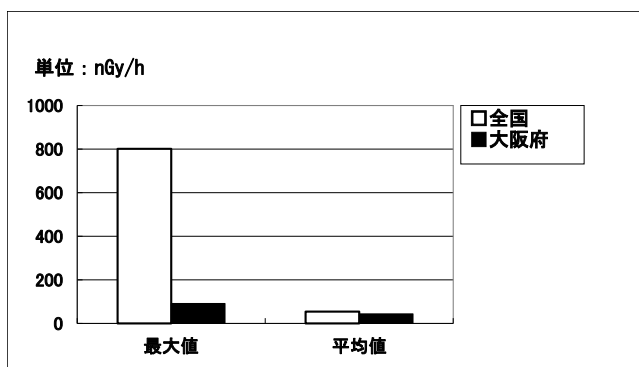
調査対象	核種名	最大値	平均値
全国	^{137}Cs	58	6.4
	^7Be	71	14.6
	^{40}K	600	69.7
	^3H	1400	474
大阪府	^{137}Cs	LTD	LTD
	^7Be	31	31
	^{40}K	90	58
	^3H	690	458

注) LTD は、検出限界値以下を表す。

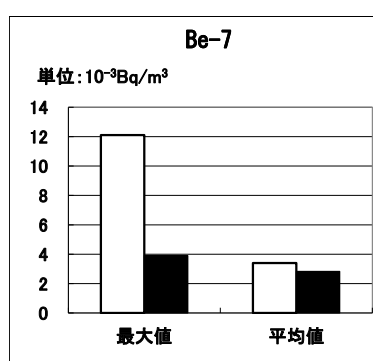
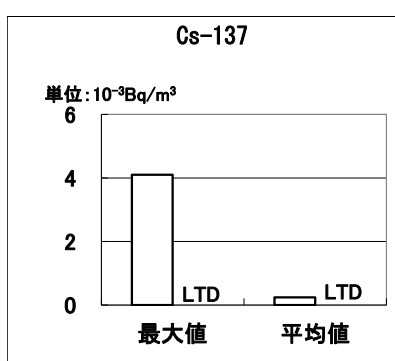
平均値には LTD は含みません。(測定結果が全て LTD の場合は最大値、平均値共に LTD となります)

(3) 調査結果グラフ表示

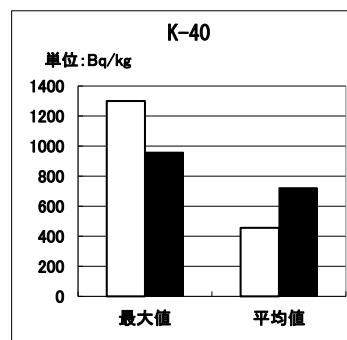
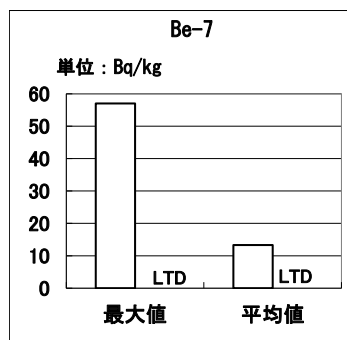
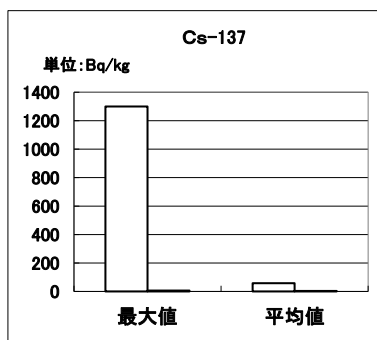
①空間線量率



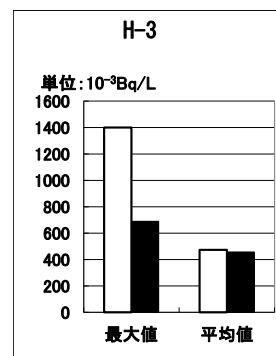
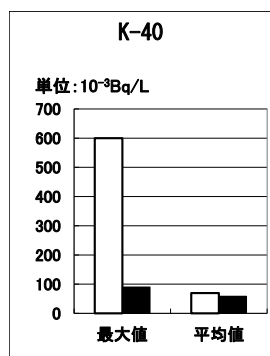
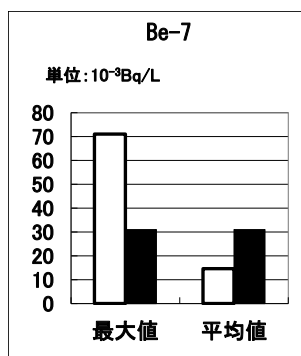
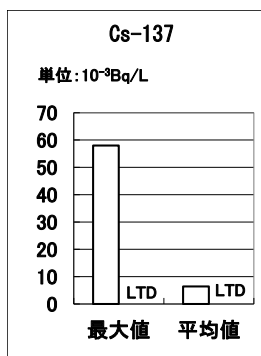
②大気浮遊じん



③土壌



④陸水



注) LTDは、検出限界値以下を表す。

平均値にはLTDは含みません。(測定結果がLTDの場合は最大値、平均値共にLTDとなります)

5 放射線・放射能の単位について

(1) 放射線の単位

① 吸収線量と実効線量

放射線の量の表し方として、「吸収線量（単位：グレイ（Gy）」）と「実効線量（単位：シーベルト（Sv）」）の二種類が用いられています。

吸収線量は、物質に放射線が照射された時、その物質に吸収された放射線のエネルギーの大きさを表したもので、人体影響や物質との相互作用を考える上で基礎となるものです。

一方、実効線量は、吸収線量に放射線の種類や人体等への影響を加味して換算したもので、放射線による人体の被ばく影響を評価する場合等に用いられます。

② 空間線量率で使用している単位

空間線量率（ γ 線）については、概ね $1\text{ Gy} = 1\text{ Sv}$ と見なすことができ、吸収線量（Gy）から実効線量（Sv）を容易に把握することができることから、本報告書では空間線量率（ γ 線）を吸収線量（Gy）で表記しています。

中性子線量率については、エネルギー範囲により吸収線量（Gy）から実効線量（Sv）への換算係数（放射線加重係数）が異なります。中性子線量率の測定機器は、自動的に実効線量（Sv）へ換算するため、吸収線量（Gy）は表示されず、換算された実効線量（Sv）のみが表示されます。そのため、本報告書では中性子線量率については実効線量（Sv）で表記しています。

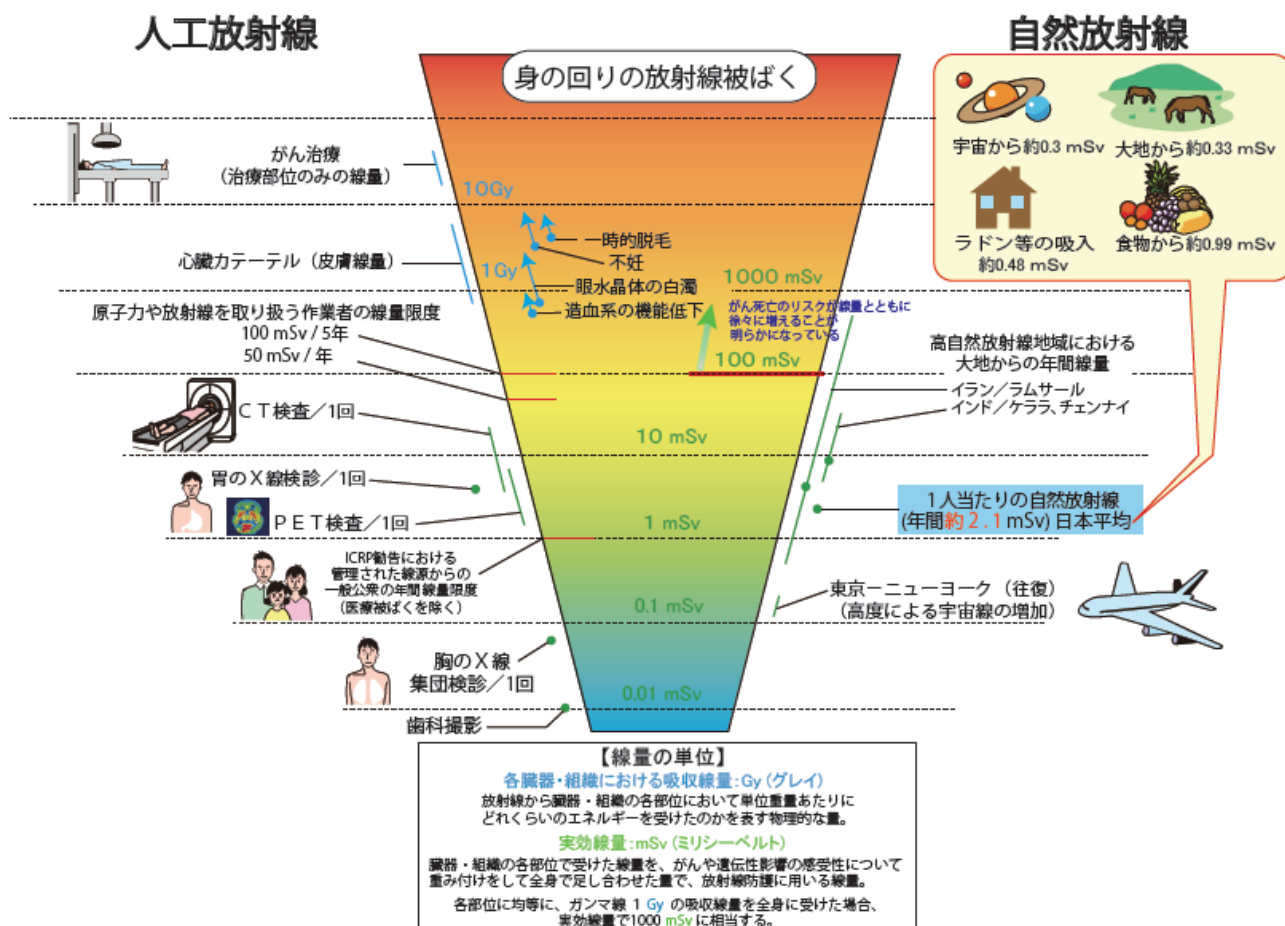
従って、本報告書では、空間線量率（ γ 線）と中性子線量率は異なった単位で表記しています。

(2) 放射能の単位

放射能とは、放射性物質が放射線を出す能力のことであり、単位はベクレル（Bq）を用います。

6 放射線被ばくの早見図

放射線被ばくの早見図



出典：(独)放射線医学総合研究所ホームページ

<http://www.nirs.go.jp/information/event/report/2013/0729.shtml>

